



**PARAMOUNT BED
HOLDINGS**

WELL-BEING REPORT 2026

当社株式はMBOにより、2026年2月を持ちまして東京証券取引所プライム市場での上場が廃止となりました。本レポートは中長期の価値創造に向けた非財務情報を中心に、持続可能な社会への取り組みをステークホルダーの皆さまへご報告するものです。マテリアリティに基づき、事業を通じていかに社会のウェルビーイングに貢献することを目指しているのか、その取り組みの内容を記載しています。今後も透明性の高い姿勢を貫き、本レポートがあらゆるステークホルダーの皆さまとの変わらぬコミュニケーションと、未来へ向けた対話の一助となれば幸甚です。





WELL-BEING for all beings

わたしたちは、医療・介護用ベッドメーカーの枠組みを超え

確かなテクノロジーとやさしさで、あらゆる人に寄り添い

それぞれの人生に、日々に、瞬間に、

ウェルビーイングを提供していきます。



CONTENTS

本レポートの使い方

アイコンやナビゲーションをクリックすると
該当ページや外部サイトに移動できます



P.00 本レポートの該当ページリンク

外部サイトリンク

動画リンク

04 CEO Message



09 ブランドメッセージの今

12 Value Creation パラマウントの価値創造

13 私たちのあゆみ

15 価値創造プロセス

16 事業紹介

18 培ってきた強み

19 ビジネスモデル

20 FEATURE 1 強みを支える研究力

22 FEATURE 2 強みを支える共創力

24 Business Sustainability

事業によるサステナビリティ

25 6つのマテリアリティ（重要課題）

26 マテリアリティ 1 持続的な医療・介護体制整備の支援

34 マテリアリティ 2 すべての人が健康で いきいきと暮らせる環境づくり

41 マテリアリティ 3 製品安全の追求

44 マテリアリティ 4 従業員の健康・ダイバーシティ・ 働き方改革の推進

50 マテリアリティ 5 環境に配慮した事業活動

54 マテリアリティ 6 コンプライアンスの徹底

59 Corporate Governance

社会の信頼に応える経営基盤

60 コーポレート・ガバナンス

62 役員紹介

67 社外取締役インタビュー



69 Facts & Data

70 財務関連データ 非財務関連データ

71 会社情報 主要グループ会社一覧

CEO Message

ウェルビーイングを当たり前。 変革を恐れず、笑顔あふれる未来へ。

2024年に策定したブランドメッセージ「WELL-BEING for all beings」。
この理想をより深く、スピーディーに実現するため、
当社グループはMBOによる株式の非公開化という道を選びました。
大きな変革期を迎えた今、パラマウントベッドが目指す価値創造について、
代表取締役社長の木村友彦が語ります。

代表取締役社長
木村 友彦



長期的な価値創造に向けた 「非公開化」への決断

——2026年2月、MBOによる株式の非公開化を行いました。この決断にいたった背景を教えてください。

2020年に社長に就任する前から、私は当社グループのトップとして果たすべき役割とは何かを常々考えるようになりました。まずは100年企業へと、そしてさらに150年、200年と発展し続ける土台づくりをすることこそが、私の役目だと結論付けたのです。それに向けて、外部環境の変化への対応やサステナビリティへの取り組み、風土改善など、課題は山積していました。そのなかの一つがビジネスモデルの転換です。当社グループは長年、医療・介護の現場に対してベッドを中心とした医療機器や福祉用具を販売する「売り切り型」中心のビジネスモデルを展開してきました。しかし、医療・介護を取り巻く環境が大

きく変化する中で、より安定的に、持続可能な形で成長していくためには、ソリューションを継続的に提供する「リカーリング型」のビジネスモデルへと転換しなければなりません。

さらに、医療・介護事業を強化するとともに、日本の社会保障制度の変化に左右されない第3、第4のビジネスを拡大させることも必要です。私は、その中心となる新たな柱が「海外市場」であり「健康事業」であると考えています。これらの新しい分野の事業を育てることは容易ではなく、一朝一夕に成果が出るものではありません。より長い目線で取り組まなければならないと考えています。

その一方で、近年の資本市場においては、短期的な財務成果を重視する意見も多く、リスクを伴うビジネスモデルの変革や、将来の成長を見据えた先行投資を進めることが難しくなっていました。MBOによる株式の非公開化という決断は、激変する環境のなかで長期的な目線を持って、ユーザーや取引先、そして社員を含むすべての人のウェルビーイングを実現するための選択です。

——MBOに対する社内外の反応や、上場廃止によるメリット・デメリットはどのようなものがありますか。

昨今の事業環境の変化は、MBOを考え始めた3~4



年前よりも一段と激しさを増しています。今回のMBOのための資金はすべて銀行からの借入れで賄いました。融資をいただくに際し、果たすべき約束事が増えるなど、責任の重みも感じていますが、銀行が当社グループの状況を徹底的に調べた上で融資を非常にスムーズに決定してくれたことは、金融のプロから高い信用という「お墨付き」をいただけたと前向きに捉えています。会社の未来を一緒になって考えてくれる力強い社外のパートナーが増えたという大きなメリットを感じています。

その他のステークホルダーの皆さまに対しても、丁寧なコミュニケーションを徹底しました。社内においては、発表と同時にイントラネットでメッセージを発信し、企業理念やブランドメッセージ、目指す方向性は変わらないので「安心してほしい」とくり返し丁寧に伝えました。その結果、大きな動揺もなく意図が受け入れられたと感じています。MBOの発表が内定式の直前だったため、上場廃止によって新卒者の内定辞退が出るのではないかと危惧していましたが、人事部のフォローにより全員が予定通り入社してくれました。

取引先に対しても、私や社員が直接足を運んでMBOの意図を説明したことで、多くの企業が共感してくださり「いい決断だった」と温かい言葉をいただきました。この

ように、社内外の幅広いステークホルダーの皆さまにこの決断を深くご理解いただけたことは、これからの大きな支えになると確信しています。

ブランドメッセージ 実現への取り組み

——ブランドメッセージの策定後、社内での浸透状況はいかがですか。

私たちは2024年、「WELL-BEING for all beings」という新たなブランドメッセージを策定しました。過去に使用していた言葉に愛着を持つ従業員も多かったため、変更には反発も予想されましたが、結果として非常にスムーズに受け入れられています。その大きな推進力となったのが、従業員一人ひとりが「誰にウェルビーイングを届けたいか」を考える取り組みです。従業員向けのワークショップを開催し、ウェルビーイングと向き合うプロセスを通じて、ブランドメッセージを「自分ごと」として捉える文化が醸成されていきました。また、自身が考えた

「WELL-BEING for ...」を名刺の裏に記せるようにしたことで、名刺交換の際にお客さまとの対話のきっかけが生まれるなど、具体的な効果も表れています。

——「ウェルビーイング・アワード」を2年連続で受賞されたことを受けて、この取り組みを今後どのように加速させていきたいですか。

「ウェルビーイング・アワード」において2025年、2026年と2年連続でゴールドを受賞できたことは、私たちの新たな挑戦が社外からも好意的に受け止めていただけた証であり、大きな自信と励みになりました。アワードの影響もあり、私たちが掲げるブランドメッセージはお客さまの間にも確実に広がりつつあると実感しています。最近では、ある納入先の病院様からご依頼をいただき、当社グループのウェルビーイングへの取り組みについて当社の社員が講演を行うという事例も出てきました。先方からは「職員の間がウェルビーイングについて考える良いきっかけになった」と喜んでいただきました。

一昔前は、当社グループへの講演依頼といえば、現場での効率化や安全性の担保といったテーマが中心でした。それが今や、ウェルビーイングの取り組みへと領域が拡大していることに、社会全体の大きな価値観の変化

を感じます。この受賞を機にブランドメッセージの認知をさらに広げ、これからの社会のなかで「ウェルビーイングといえばパラマウントベッド」と真っ先に想起していただけるような存在になることを目指して、取り組みを加速させてまいります。

——ベッドメーカーとしてのイメージが強かったパラマウントベッドが、「ウェルビーイング」への取り組みに注力するのはなぜですか。

「WELL-BEING for all beings」の原点は、「パラマウントビジョン2030」で示した「『医療』『介護』から『健康』まですべての人に笑顔を」という想いにあります。当社グループの製品の多くは、療養や介護が必要な状態になって初めて利用されるものです。本来であれば、誰もが最期まで健康で、私たちの医療・介護ベッドを必要としない人生を送れるのが究極の理想です。そしてその理想の実現に貢献することこそ、私たちの使命であると考えています。

約80年にわたり医療・介護の現場で培ってきた知見や、現在、国内外で稼働する300万台以上のベッドから得られる多様なデータは、健康寿命を延ばすためのソリューション開発に生かせる、ほかにない資産になりま

す。その中核となるのが、人が生まれてから亡くなるまで毎日行う「睡眠」です。当社グループは睡眠研究所を有しており、「睡眠に関わるさまざまな課題と向き合い、解決するお手伝いをする」ことを使命と考え、研究開発を進めています。睡眠改善を通じて自分らしく健やかな毎日を送るためのサポートを提供することで、人々のウェルビーイングを支える。それは、ベッドメーカーとして創業した私たちだからこそ果たせる、根源的な役割です。

持続可能な組織づくりと次世代への継承

——従来から人的資本の強化を進められています。足元の取り組み状況はいかがですか。

当社グループでは昨年、従来掲げてきた目指すべき風土「コミュニケーションを尽くす風土」「挑戦を援(たす)ける風土」に、新たに「一人ひとりを尊重する風土」を加えました。ジェンダーや年齢、国籍を問わず、すべての従業員が自分らしく最大限に能力を発揮できる組織づく



りこそが、企業の競争力強化に直結すると信じているからです。

かつての社内には新しいチャレンジに対して保守的な雰囲気もありましたが、現在は従業員の自発的な提案から始まったフェムテック事業や、まだ発表できないさまざまな挑戦が水面下で次々と生まれています。また、変化の激しい時代において、すべての課題を自社だけで解決



する「自前主義」には限界があります。そこで2022年に設立したCVCファンドでは、若手従業員が主体となってヘルステック領域のスタートアップ企業への投資と事業協業を進めてきました。これは社外の革新的な技術やアイデアを取り込むとともに、従業員の挑戦を後押しする活動です。引き続きこうした事例の創出を通じて、ウェルビーイングの可能性を広げてまいります。

——これからの100年を見据えたとき、次の世代にどのような「パラマウントベッド」を継承していきたいとお考えですか。

私は、自らの役割を「会社を預かること」だと認識しています。先人たちから受け継いだバトンを、より良い形で次の世代につなぐことが私の使命です。今回のMBOによって、私たちは短期的な株式市場の波に左右されることなく、真に向き合うべきステークホルダーのために、長期的な目線で真摯に取り組む環境を手に入れました。これにより、当社グループは改めて「第二創業期」のスタートラインに立ったといえます。国内の人口減少や社会保障費の抑制という時代

の潮流のなかで、従来のビジネスモデルに固執しては企業の存続は危うくなります。「ベッドを売る」ことからソリューションの提供へ、国内から海外市場へ、そして医療・介護から健康領域へ。既存の枠組みを大胆に変革し、事業の多角化を進める覚悟を示すため、社内向けには「社名からベッドを外してもいい」とまで伝えていきます。時代に合わせて自らを変革し、社会に貢献し続ける

強い組織を次世代へと継承してまいります。

——社長の名刺の裏に記載されたWELL-BEING forの対象は何ですか？

私の名刺に記したWELL-BEING forの対象は「next generation」です。これは、次の世代を担う子どもたちや現役世代が健やかでいきいきと暮らせる社会を実現したいという想いと、創業100周年、そしてさらにその先へと続く会社の未来を切り拓くという、2つの決意を含めた言葉です。先人たちから引き継がれてきた健全な風土を土台とし、ステークホルダーの皆さまのご期待に応え、すべての人のウェルビーイングに貢献できるよう、変革の先頭に立ち続けてまいります。



ブランドメッセージの今

全員で挑んだ風土改革が 2年連続「ゴールド」の実績へ

パラマウントベッドグループが掲げるブランドメッセージ「WELL-BEING for all beings」。この想いを単なるスローガンで終わらず、一人ひとりの働く環境や組織のあり方へと落とし込んできた私たちの「今」が、最高の形で証明されました。朝日新聞社をはじめとするウェルビーイングアクション実行委員会が主催する「ウェルビーイング・アワード」において、2025年・2026年と2年連続のゴールド受賞、そして2026年の2部門同時ゴールド受賞を果たしました。柔軟な働き方の推進や健康経営といった具体的な施策だけでなく、「3つの風土」の醸成に全社一丸となって取り組んできたプロセスそのものが評価された結果です。制度という枠組みを超えて、一人ひとりの意識と行動が変わり、組織のカルチャーとして息づいている成果を自信に変え、私たちのウェルビーイングをさらに進化させていきます。

ウェルビーイング・アワード2025

- ・組織・チーム部門 GOLD

ウェルビーイング・アワード2026

- ・組織・チーム部門 GOLD
- ・モノ・サービス部門 (Tsubaki Project) GOLD

※2026年度アワードにおいて、唯一となる2部門同時GOLD受賞を達成。



一人ひとりが紡ぐWELL-BEING

ブランドメッセージを自分ごと化するワークショップを通じ、社員が自らの想いを言語化。名刺の裏にそれぞれの「WELL-BEING for ...」を掲げ、日々実践しています。

WELL-BEING for all those in need



三ツ木 勇人
生産本部
生産技術部長

身体が不自由な人のための仕事をしたいと考え始めたのは、大学4年生のとき。スキーで足を怪我し、松葉杖の生活を送りました。電車で下をよく見ていない人に足を蹴られたり、駅では下りエスカレーターがないことが多く、階段を降りるのに苦労したり……。大変だった経験から、「人それぞれ異なる状況を理解して、少しでもお困りごとを軽減する仕事をしたい」という想いを抱きました。今でもその想いを原動力として、製品がお客さまに届くまでの過程を想像し、お客さまに喜んでいただけることを仕事の判断の軸にしています。

WELL-BEING for writers



江 康慧
広報部
主任

私が所属する広報部では、当社グループの新製品や新事業、各種取り組みなどを対外的に発信しています。その中で、直接関わるが多いのは記者やライターです。そして私自身も、アジア経済を扱うニュースサイトで記者として8年間勤務した経験があり、多くの企業広報担当者と関わってきました。情報発信をする際にはその経験を生かし、記者の視点に立って、記事になったときの構成をイメージするようにしています。わかりやすいコミュニケーションをすることで、記者のウェルビーイングを支えたいと考えています。

WELL-BEING for new generations



名取 瞳
国際営業本部
主任

私は現在、海外駐在員としてベトナム現地法人のスタッフマネジメントを行っています。特にブランドメッセージを意識するのは、会社の仕組みや体制を検討する場面です。会社の発展を考えるのはもちろんですが、それと同時に、よりよく働ける環境づくりを大切にしています。社員がモチベーションを持ち、やりがいを感じながら仕事に取り組めることが、結果的に組織全体の成長につながると信じているからです。未来の社会をつくる次の世代が前向きにチャレンジできるよう、私自身も日々学び続けながら努力していきます。

WELL-BEING for everyone in Tohoku



宮川 知己
営業本部
仙台支店

東北エリアで働く中で、たくさんの人のがんばりや葛藤、やさしさに触れてきました。少子高齢化や過疎化といった課題を抱える地域だからこそ、1つの提案が大きな力になると感じます。新ブランドメッセージを初めて聞いたとき、自分の仕事とのつながりがすぐには見えませんでした。ですが、娘が誕生した今、「誰かのウェルビーイング」を願うことをリアルに実感しています。仕事で出会う看護師の皆さんや患者さんも、誰かにとってのかけがえのない存在。そんな人々を支える道具に関われていることに、誇りを持っています。

社会の「よりよい生き方」をつなぐ共創メディア

私たちは、「WELL-BEING for ... 」という言葉に込めた想いや、
一人ひとりの多様な幸せのあり方を発信するWebメディアを運営しています

さまざまな「WELL-BEING for ... 」

WELL-BEING for children

WELL-BEING for caregivers

WELL-BEING for communities

WELL-BEING for women

WELL-BEING for mothers and babies

WELL-BEING for family

WELL-BEING for patients and medical professionals

WELL-BEING for elders

WELL-BEING for athletes

WELL-BEING for earth

WELL-BEING for care receivers & caregivers

WELL-BEING for students



多様な「幸せのカタチ」や、医療・介護の現場、異業種パートナーとの対談ストーリーをお届けしています。私たちの新しい挑戦をご覧ください。

特設Webサイト [🔗](#)

Value Creation

パラマウントの価値創造

医療用ベッドのパイオニアとして、歩みを進めてきたパラマウント。

時代の変化に寄り添いながら、わたしたちが培ってきた強みやビジネスモデルは、決して揺らぐことのない普遍的な価値の結晶です。

これまでの歴史を未来へとつなぎ、さらなる成長を遂げるために。

確かな基盤を軸に、私たちはこれからも新たな価値を生み出し続けます。

私たちのあゆみ

1940年～

事業による社会貢献という企業文化

日本における医療用ベッドのパイオニアとして、1947年に「木村寝台製作所」を創業。創業者木村隆輔が自ら開発責任者として日本の医療・看護システムや日本人の体型に合わせたギャッチベッドを開発し、ブランド名として「パラマウントベッド」と名付けました。



木村寝台製作所を創業



国産第一号となる
電動ベッドを開発

1960年～

技術開発の近代化で国内トップメーカーへ

患者の快適な療養生活に役立つベッドを開発するため、アメリカを視察して技術や生産体制のノウハウを学び、1966年には千葉県に大規模工場を新設。性能・品質に優れたベッドを大量に提供できる体制を確立し、リーディングカンパニーとしての地位を築きました。



千葉県に大規模工場を新設

1968



貿易部門を新設
国際事業を開始

1980年～

高齢化で広がる在宅介護関連ニーズに対応

日本が高齢化社会の始まりを迎えたことを背景に、当社は社会的ニーズにいち早く対応するため、介護事業を開始。現在でも当社の定番製品となっている自動採尿器「スカットクリーン」や、業界で初めて在宅介護用の電動ベッド「アウラ電動ベッド」などを発売しました。

1987

— As human, for human —
PARAMOUNT BED

商号の変更と株式公開



業界初の在宅介護用
電動ベッドを開発



介護事業

海外展開

医療事業



2000年～

上質な眠りを提案する健康事業を始動

当社は2000年に新しい企業理念を制定するとともに、医療だけでなく健康まで包括する「ヘルスケア」という概念を再認識しました。2003年には“上質な眠りと健康”を提案する新ブランドを始動。健康志向のベッドルーム・インテリア市場に参入しました。

2002



パラテクノ株式会社を設立

2003



一般家庭向けブランド開発

2007



福祉用具のレンタル卸事業に参入
(現、パラマウントケアサービス株式会社)

2010年～

テクノロジーの力ですべての人により良い睡眠を

近年では、ICT搭載の在宅介護ベッドや、被介護者の体動データをリアルタイムで共有できる「眠りCONNECT」など、テクノロジーを活用した新サービス群を展開。健康事業からも新ブランド「Active Sleep」を開発し、製品・サービスの拡充を図っています。

2011



持株会社体制への移行

2023



「眠りCONNECT」の
提供を開始

2025



「楽匠Fitシリーズ」を発売

2016



「スマートベッドシステム」を
開発

2024



「Active Sleep BED」
フルモデルチェンジ

健康事業

事業の多角化
(サービス・リカーリング強化)

グローバル化の加速

製品・サービスのICT化

健康事業

介護事業

海外展開

医療事業

パラマウント
ビジョン
2030

「医療」「介護」から「健康」まで
すべての人に笑顔を

価値創造プロセス

企業理念

先進の技術と優しさで、
快適なヘルスケア環境を創造します



社会課題

人口構造の変化

- 日本と世界の
高齢化・長寿化
- 人口減・労働者不足
- アジアの成長

価値観の変化

- ダイバーシティ
- ワークライフバランス
- 働き方改革
- ESG・SDGsへの
取り組み

INPUT

人的資本

知的資本

製造資本

自然資本

社会関係資本

財務資本

ビジネスモデル

□ P.19

あらゆる人の
ウェルビーイングを叶える
事業を展開

継続的なモニタリング

生活者

あらゆる「人」に
寄り添う

患者
療養者

予知・予防

治療

健康事業

医療事業

介護事業

培ってきた強み

□ P.18

6つの
マテリアリティ

1

持続的な医療・
介護体制整備の
支援

2

すべての人が健康で
いきいきと暮らせる
環境づくり

3

製品安全の
追求

4

従業員の健康・
ダイバーシティ・
働き方改革の推進

5

環境に配慮した
事業活動

6

コンプライアンスの
徹底

Business
Sustainability

事業による
サステナビリティ

□ P.24

WELL-BEING for all beings

OUTCOME

提供価値

事業価値

- お客さまとの強固な信頼関係
- 健全な財務指標、非財務指標

社会価値

- 病院・介護施設等の
経営改善、療養環境改善
- 看護・介護する方の負担軽減
- 患者の早い社会復帰
- 介護される方の高いQOL
- いきいきとした暮らし・
健康寿命延伸・睡眠改善

環境価値

- 事業活動における
環境負荷低減
- 循環型社会実現への貢献

Vision



事業紹介

医療事業

患者が心地よく過ごすことができ、
医療従事者が専門業務に集中できる。
医療施設向けの製品・サービスを通じて
患者のケアや病院運営をサポートします。



●医療機関向けの製品・サービス

一般病棟から救命救急やICUなどの高度急性期医療、周産期や新生児・小児医療、リハビリテーションなど。国内外のさまざまな医療現場に対して、各現場で求められる幅広い製品・サービスを提供しています。



●医療施設内業務の効率化支援

患者のバイタルサインを統合管理し看護業務の負担軽減に寄与する「スマートベッドシステム」で、医療施設内の業務および患者満足度向上をサポートします。



●患者満足度向上・経営支援

病院経営を支える「アメニティ」「スタッフィング」「デジタル・センシング」の3つの提供価値で、病院の設備投資負担の軽減、スタッフの業務負担の低減、医療安全に寄与します。

介護事業

介護施設向けや在宅介護向けの
幅広い製品・サービスの提供により
利用者の療養環境整備や
事業者の業務効率化に貢献します。



●先進テクノロジーによる介護施設DXの推進

「眠りCONNECT」や「トイレDIARY」などの見守り・排泄センサーを活用し、介護施設におけるケアの質向上と大幅な業務効率化を実現。職員の負担を軽減し、入居者の尊厳を守る次世代のケアを確立します。



●進化を続ける介護用ベッド「楽匠Fitシリーズ」

長年の研究から生まれた「楽匠Fitシリーズ」は、身体の上や圧迫感を画期的に軽減する独自の背上げ機構を搭載。利用者の快適な療養環境と、介護側の動作サポートを両立させ、業界のスタンダードを牽引しています。



●在宅介護の基盤を支える福祉用具レンタル卸

全国の福祉用具貸与事業者への販売・レンタル卸を通じて、ご自宅での自立した暮らしをサポート。高品質なベッドやマットレスを安定供給し、日本の在宅介護インフラを現場の最前線から強固に支えています。



事業紹介

健康事業

健康な人生を送り、
医療や介護の必要が少ない世界へ。
睡眠研究の成果を生かし、
その人らしい豊かな暮らしを支えます。



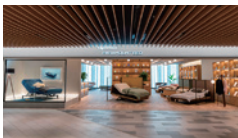
●「Active Sleep」による理想の睡眠サポート

「パラマウントベッド睡眠研究所」による長年の研究成果とエビデンスに基づき、一人ひとりの理想の眠りをサポートするブランド「Active Sleep」を展開。独自のセンシング技術とベッドの自動運転機能などを融合させ、データに裏打ちされた確かなアプローチで質の高い睡眠環境を提供します。



●生活者との接点を広げる体験チャネルの拡大

生活者が製品を体感できる場を量・質ともに強化。新規出店だけでなく、宿泊施設や娯楽施設といった新たな体験チャネルの開拓を推進しています。



●CVC活用による予防医療・新規事業への挑戦

CVCを活用した異業種連携により、睡眠課題へのアプローチを加速。多様なライフスタイルにおける睡眠の悩みに対応する予防医療サービスを共創し、あらゆる生活者に必要とされる新規事業の開発に挑戦します。



海外展開

日本の確かな品質を世界中へ。
現地の医療・介護ニーズに深く寄り添い、
最適な製品とサービスを通じて、
国境を超えたウェルビーイングを支えます。



●110カ国以上の実績と築き上げた信頼

1968年の海外進出以来、製品の納入実績国は110カ国以上にのぼります。半世紀以上にわたり世界の医療・介護現場を支援してきた確かな品質とブランド認知を強みに、グローバルな市場を牽引しています。

●アジア注力エリアでの現地化と自社工場

インドネシア、中国、インド等に拠点を構え現地化を推進。特にインドでは工場を拡張。進出国の多くで医療用電動ベッド分野においてトップシェアを獲得しています。現地に自社工場を持つ強みを生かし、市場変化に迅速に対応します。

●需要を捉えるローカライズと先端技術

中国での電動化を促す新機種投入や、ITインフラが進むインドへの「スマートベッドシステム」展開など市場特性に合わせた戦略を徹底。普及型から高機能モデルまで現地のニーズに応える製品を投入しています。



培ってきた強み

真の課題解決を追い求めて、わたしたちのサービスは広がり続けています。ベッドの開発・販売にとどまらず、ヘルスケア環境に必要なさまざまな製品から病院運営の支援まで。すべては患者、医療従事者、介護事業者など、誰もが快適に活動できるようにするためです。さらに、当社グループ間の連携によるワンストップなサービス提供と、現場の声を生かした品質向上を実現しています。長年にわたり業界をリードし続けてきた、パラマウントベッドグループにしかない強みであると自負しています。

01

ワンストップ ソリューション体制

グループ間のシームレスな連携

ベッドを主軸としたヘルスケア環境に必要な製品・サービスを、企画→開発→製造→販売・レンタル、そして提供後の品質管理やメンテナンスからアフターフォローまで、顧客のニーズや課題に対して高次元のソリューションを提案。ワンストップで提供できる体制を構築しています。

02

顧客基盤

オンリーワンな業界ネットワーク

医療施設、医療機器ディーラー、介護施設、福祉用具貸与事業者およびレンタル卸事業者、医療・介護・健康の各事業における販売店などの皆さまと、長年にわたって強固な信頼関係を築いてきました。自社だけでは気づけないニーズや思いつかないアイデアを共有し、ともに社会課題へ取り組んでいます。

03

優しさを 価値に変える力

創業から変わらない社会貢献への使命感

わたしたちの事業を取り巻く環境は、時代とともに多様化・複雑化しています。しかし約80年にわたり、「社業を通じた社会貢献」という変わらない信念を持ち続けることで、柔軟に対応してきました。これからもその想いのもと、社会で必要とされる会社となるために、現場や利用者のお困りごとに寄り添い続けます。

ビジネスモデル



FEATURE 1

強みを支える研究力

「睡眠」をとことん研究し、毎日のウェルビーイングを支える



スリープテックの現在地

「昨晚はぐっすり眠れて、今日は元気いっぱい!」。最近、心からそう感じたことはありますか?日本は「睡眠負債大国」と呼ばれ、2021年の経済協力開発機構(OECD)の調査では、日本人の平均睡眠時間は7時間22分と加盟33カ国の中で最も短いことが報告されました。睡眠不足は生活習慣病やうつ病、認知症などのリスクを高めるだけでなく、国民一人当たりの国民総生産(GDP)とも関連しており、日本における睡眠不足の経済損失は年間15兆~20兆円にのぼると試算されています。

近年、健康意識の高まりからスマートウォッチなどによる「睡眠トラッキング」が身近になりました。しかし、単に睡眠を「計測」するだけでは睡眠不足の解決にはいたりません。「何が原因なのか」「改善のためにどう行動すべきか」という、データから価値あるインサイトを導き出し、生活や医療の現場に還元することこそが、今スリープテック*に求められている真の現在地です。

理工学×臨床の専門家集団「パラマウントベッド睡眠研究所」

当社グループは1947年の創業以来、医療用ベッドのパイオニアとして現場を支えてきました。その歩みの中で、より多くの人々のウェルビーイングに貢献するため、2000年代から睡眠研究を本格化。

社外への情報提供

学会

一般の方

研究機関

お客さま

パラマウントベッド
睡眠研究所

睡眠に関する研究と要素技術の開発
および製品の評価、情報収集・発信

研究
チーム看護師
チーム

営業

マーケティング

技術開発

設計・デザイン

CVC

社内との連携

2009年には「睡眠に関わる課題を解決する」を使命に「パラマウントベッド睡眠研究所」を設立しました。

当研究所の強みは、理工学系の博士・修士号を持つ研究チームと、臨床経験を持つ看護師チームが融合している点にあります。この異分野のプロ同士が密に議論を重ねることで、技術的なイノベーションと医療・介護現場での実用性を高度に両立。社内の各部署と連携して社会の潜在ニーズをいち早くキャッチし、学術的な理論と現場視点の双方から研究を実践しています。これまで、何も装着せずに睡眠状態を把握できるシート型体動センサや、楽な寝返りを支える「等反発マットレス」、睡眠に合わせてベッドの角度を変える「眠りの自動運転ベッド」など、数々の革新的な製品・機能を社会に送り出してきました。

命の現場から食卓まで、テクノロジーで未来を切り拓く

現在、私たちの研究はさらなる進化を遂げています。当社独自の体動検知技術を発展させ、睡眠中の「体を掻く行動」を検知して不眠の原因を特定する研究や、心不全の増悪を早期発見するアルゴリズムの開発を完了・推進しています。さらに、終末期がん患者を対象に、呼吸や心拍の定量データからAIを活用して「最期の時」を正確に予測する研究にも挑戦しています。人手による判断の限界をテクノロジーが補うことで、医療スタッフの業務負担を軽減するとともに、ご本人やご家族の生活の質（QOL）が向上した社会の実現を目指します。

また、医療・介護の場にとどまらず、2025年3月には日清食品株式会社と『食』と『睡眠』によるウェルビーイング向上プロジェクト」を始動。個人の価値観に応じた最適な行動を提案するオンラインチェックツールを共同開発し、2026年に公開しました。睡眠に関する専門的な知見を「食」という日常の営みに掛け合わせることで、アプローチの領域を大きく拡大しています。1日24時間という限られた時間の中で、エビデンスに基づく豊かなライフスタイルを提案し、社会全体のウェルビーイングに貢献していきます。

※Sleep（睡眠）と Technology（技術）を組み合わせた造語で、IT技術やAIなどを活用して睡眠の質を向上させる製品やサービスのこと。

Voice

仕事を通して、
社会を変えていく

パラマウントベッド
睡眠研究所 所長

木暮 貴政
博士（医学） 修士（工学）

場所はどこであれ当社の体動センサの上で最期を迎える、これが私の夢です。そういったことが当然になるくらい、当社独自のセンシング技術を社会に普及させたいという想いがあるからです。私は2001年に当社グループに入社して以来、製品開発にたずさわってきました。そして、2009年の睡眠研究所の立ち上げにも参加しています。当時から日本が抱える睡眠の課題は解決されていません。日本では当たり前のようにになっている“日中の眠気”は、欧米では体調不良と見なされる、正常ではない状態なのです。課題は山積みですが、体動センサや自動運転ベッドなど当社製品が活用されることが課題解決に貢献すると信じています。研究所や当社グループの仲間たちとともに、一つずつ解決し、多くの人のウェルビーイングを支援していきたいです。

〈主な探索テーマと投資実績〉

ケアする人のサポート



中小企業向け福利厚生



重症患者の遠隔モニタリング



診察・入院説明



とはなす株式会社

医療・介護の職場環境改善

睡眠とのシナジー



リカバリーウェア



SUTIMIN
Sleep is the Ultimate Intelligent Mechanism in Nature

睡眠解析



化粧品



Runtrip

ランニングアプリ

FEATURE 2

強みを支える共創力

“投資”から“共創”へ深化するCVC

シナジー創出で革新に挑む

当社グループは、SBIインベストメント株式会社と共同でCVC（コーポレート・ベンチャー・キャピタル）ファンドを運営しています。誰もが笑顔で安心して生活できる社会の実現を目指し、スタートアップ企業との事業シナジーを創出することで、従来のパラマウントベッドグループだけでは成し得ないイノベーションに挑みます。

2022年に設立した当ファンドは探索テーマとして「ケアする人のサポート」と「睡眠とのシナジー」を掲げながら投資実績を積み上げ、ヘルスケア領域の未来を創るスタートアップ企業の成長を後押しします。

CVCを通じた連携事例

2026年に第5期を迎え実績を積み上げてきたことで、投資先との関係性は“投資”から“共創”へと深化しつつあります。当社がこれまでお世話になってきた「ケアする人」に対する協業具体例の一つが、中小企業向け企業年金制度「はぐくみ企業年金」の導入支援を行う株式会社ベター・プレイスとの協業です。同社との連携を通してわたしたちは人材の定着や働く環境の整備が課題となっている医療・介護業界に対し、経済的な安心を提供することで、スタッフの皆さまが安心して長く働き続けられる職場づくりを支援してまいります。

投資実績

2026年6月時点

19社

公式サイト [🔗](#)

当社がファンドを設立した大きな目的は、新しい挑戦を推進する社内環境をつくることです。例えば、各部署とのミーティングを積極的に設け、情報交換や新サービスの探索を盛んに行っています。また、日々のトレンドを中心とした情報共有を毎朝発信し、社内から多くの反応が寄せられています。今後もオープンイノベーションを後押しし、当社事業シナジーの最大化を目指します。

Voice

社内から挑む

新サービス創出

古賀 成憲

パラマウントベッド株式会社
経営企画本部
ヘルスケアファンド
統括責任者

また、パラマウントベッドが強みとする「睡眠」を軸とした領域においては、株式会社TENTIALとの取り組みがあります。同社はリカバリーウェアをはじめとしたウェルネスブランド事業を展開しており、当社は睡眠研究所とのモニター評価などを通じてプロモーションで連携しました。同社は2025年2月に東証グロース市場での新規上場を達成しました。

2025年にはウェルネス領域における新たな価値創造を目指し、ランニングアプリを運営する株式会社ラントリップへの出資を行いました。同社がリーチするランナーに対して、「運動」と「睡眠」を掛け合わせたサービスや商品を開発することで、より多くの人々の健康づくりに貢献し、幅広い世代へのウェルビーイング向上に寄与していきます。

価値最大化の実行フェースへ

当ファンドの目的は、単なる“投資”ではありません。外部と連携しながら新しい価値を生む“共創”により、当社グループが目指す「コミュニケーションを尽くす風土」と「挑戦を援ける風土」をつくることです。若手が中心となってオープンイノベーションを加速し、新たな技術の知見を取り入れることで、パラマウントベッドブランドの付加価値向上を図るとともに、ボトムアップ型経営へのシフトにもつなげたい考えです。当ファンドは今後、ビジョン実現に向けて価値共創の最大化を目指していきます。

Business Sustainability

事業によるサステナビリティ

事業を通じてパラマウントグループが提供したい価値は、
あらゆる人のウェルビーイングです。

世界中がサステナブルな社会を目指し、一体となって動いている今。

わたしたちもまた、そんな社会とともに成長するために、

6つのマテリアリティ（重要課題）を掲げて事業活動を行っています。

すべての人の健康と幸せに寄り添う、わたしたちの挑戦です。

6つのマテリアリティ（重要課題）

MATERIALITY

1



持続的な医療・介護体制整備の支援

- 医療・介護の効率化・働き方改革支援
- 看護・介護従事者に対する教育への支援
- 非常事態時における支援供給体制



MATERIALITY

2



すべての人が健康でいきいきと暮らせる環境づくり

- 科学的な根拠に基づく睡眠環境提案
- アスリートへの睡眠改善提案を通じたパフォーマンス向上支援
- 次世代の担い手への育成支援



MATERIALITY

3



製品安全の追求

- 製品安全のための体制整備
- 安全な使い方の啓発
- 業界横断的な取り組みへの積極的関与



MATERIALITY

4



従業員の健康・ダイバーシティ・働き方改革の推進

- 従業員の健康・労働安全への取り組み
- ダイバーシティの推進
- 働き方改革の推進



MATERIALITY

5



環境に配慮した事業活動

- 生産プロセスにおける環境負荷の低減
- プロダクトライフサイクル全般を通じた環境負荷の低減
- 循環型社会実現への貢献



MATERIALITY

6



コンプライアンスの徹底

- 企業倫理の取り組み
- 公正取引の徹底
- 透明性の高いガバナンスの推進



MATERIALITY

1

持続的な医療・介護体制整備の支援

医療と介護の現場は、人々の健やかな暮らしを支える基盤です。

しかし今、その現場が大きな転換期を迎えています。

誰もが安心してケアを受けられる未来のために。

私たちは医療・介護の課題に寄り添い、

持続可能な体制づくりに貢献します。



取り組みを通して達成を目指すSDGs項目



医療事業

医療の質向上と 現場の持続可能性を守る 「3つの提供価値」

深刻な医師不足や働き方改革、光熱費・資材費の高騰など、医療機関の経営環境は混迷を極めています。私たちは、医療の質を維持しながら現場を支え続けるため、「アメニティ」「スタッフィング」「デジタル・センシング」の3軸で価値を提供しています。初期投資を抑えるリカーリングモデルや、センサー活用による業務負担軽減など、病院ごとの課題に寄り添った多角的なソリューションを展開。単なる製品提供にとどまらず、患者満足度の向上と病院経営の持続性をともに創り上げるパートナーとして、日本の、そして世界の医療現場の未来を支えます。

患者満足度向上、
設備投資負担軽減、
経営改善へ寄与

①アメニティ



病棟備品レンタル・修繕、
テレビ・冷蔵庫・Wi-Fi等利用サービス
入院セット など

業務効率化、
タスクシフティング支援、
医療安全向上等への貢献

②スタッフィング (常駐サービス)



ベッドセンター業務、
各種医療機器管理、看護助手、
コンシェルジュ など

③デジタル・センシング



「離床CATCH」、
「スマートベッドシステム」 など

医療事業

M&Aによる循環器領域のソリューション強化

医療現場の課題解決に貢献するため、M&Aを加速しています。異なる領域の見解を持つ企業との提携により、ベッドや備品の提供から診断・治療支援へとソリューションを拡大中です。循環器領域では、心不全悪化の早期発見を目指す「RST®算出プログラム」を開発したハートラボ株式会社と、小児用体外設置式補助人工心臓システムを扱う株式会社カルディオの2社をグループ化しました。多様なアプローチから循環器領域のソリューションを強化し、今後も質の高い医療体制の維持・発展を支えていきます。

診断・治療支援
(カルディオ・ハートラボ)

医療DX・
経営改善支援
(スマートベッド・
リカリング関連)



看護・
療養環境支援

「スマートベッドシステム」による医療安全の向上

医療安全の向上と現場の負担軽減に向け、「スマートベッドシステム」の普及を進めています。本システムは、ベッド内蔵のセンサーが検知した離床情報や睡眠・生体情報を、リアルタイムで電子カルテやモバイル端末などへ連携する仕組みです。このデジタルセンシング技術により、患者の転倒・転落リスクの低減と、見守りを行うスタッフの負担軽減を同時に実現。テクノロジーの力で最適なケアをサポートし、より安全で質の高い医療環境の整備を支えています。



心の準備ツール「ぶれパレット」の開発

あらかじめ子どもたちに病気や検査、治療のことをわかりやすく説明し、不安や恐怖を和らげる「プレパレーション」。その重要性は認識しつつも、医療行為とはちがいが決まりがないため、医療スタッフにとって取り組みにくいという問題があります。当社はNPO法人チア・アートと共同で、初めてのプレパレーションを行う看護師でもわかりやすく子どもたちに説明できる支援ツール「ぶれパレット」を制作。医療関係者に無償提供を行っています。



 WELL-BEING for サイト 関連記事

介護事業 施設介護

テクノロジーの力で、 介護現場に「心のゆとり」を

人手不足が深刻化する介護現場において、DX化による業務効率化は喫緊の課題です。私たちは、累計約30万台の導入実績を持つ「体動センサ」と、その情報を遠隔で一括管理・共有できる見守り支援システム「眠りCONNECT」を軸にプラットフォームを展開しています。排泄ケアや体重測定などの周辺機能ともシステムを拡充・連携させることで、スタッフの肉体的・精神的負担を軽減し、入居者への直接的なケアの時間を創出。施設から在宅まで、蓄積された生体データをAIで活用するソリューションを推進し、データに基づいた質の高いケアを支援します。



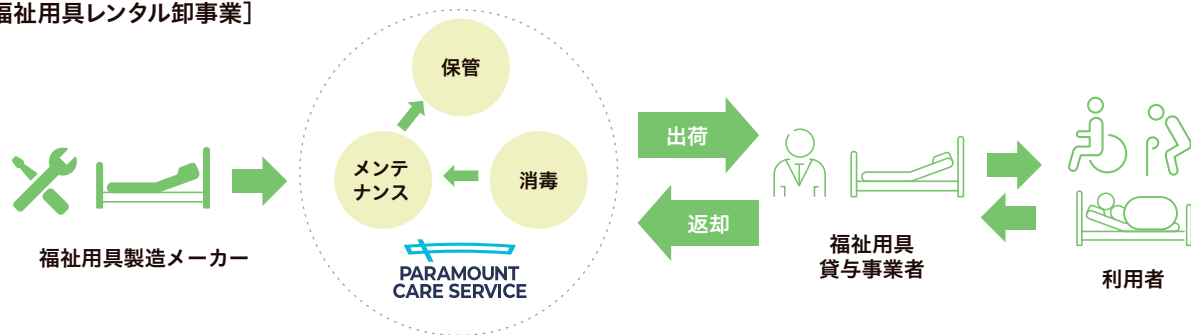
※「眠りCONNECT」との連携イメージ

介護事業 在宅介護

リカーリングモデルの深化で在宅ケアをより身近に

私たちは、住み慣れた自宅で最期まで暮らしたいという願いに応えるため、在宅介護向けソリューションを提供しています。福祉用具レンタル卸事業を通じたリカーリングビジネスでは、利用者一人ひとりの状況に合わせた最適な用具の選定や、家族・ケアマネジャーの負担を軽減するアプリの提供など、在宅ケアを包括的に支える仕組みを構築。循環型ビジネスを深化させることで、長期にわたる安心を提供し、地域包括ケアシステムの要としての役割を果たしていきます。

[福祉用具レンタル卸事業]



福祉用具の進化と充実

- ベッドの進化
- 事業者アプリ開発
- オリジナル福祉用具の充実



事業者も利用者も助けるソリューション

- 保険外サービス創出
- 施設向けソリューションの在宅展開
- 製品の再資源化



在宅療養環境でも
提供開始

レンタル卸シェアアップ

- メンテナンス・営業拠点開発
- 貸与事業支援システム開発
- レンタル資産保有高拡大



「眠りCONNECT」を

在宅療養環境でも提供開始

介護施設向けに販売してきた「眠りCONNECT」に、在宅療養環境でも利用できるラインアップを追加しました。Wi-Fi環境が整っていない介護施設や自宅でも利用可能となり、住み慣れた場所で安心して生活を継続できる環境づくりに寄与します。

介護事業

在宅向け介護ベッド「楽匠Fit」シリーズを発売

2025年8月に在宅向け介護用ベッド「楽匠Fit」シリーズを発売しました。本製品は、累計販売台数 23万台を超える主力製品「楽匠プラス」シリーズの後継機種です。ずれ軽減と体圧分散を強化した新構造「フィットラインボトム」や、直感的に使える「液晶タッチパネル付き手元スイッチ」を採用しています。高齢化に伴って在宅療養のニーズが高まるなか、当社は「誰もが心地よく過ごせる療養環境」の実現を目指しています。



スタッフの負担を軽減し、利用者の尊厳を守る排泄ケアDX

介護サービスにおける排泄ケアは、利用者の健康状態を把握するための重要な業務です。一方で、排泄の頻度や排泄物の状態をスタッフが確認するのは身体的・精神的に大きな負担となります。また、利用者の尊厳を守るという観点からも、排泄ケアを自動化するテクノロジーが求められていました。そこでパラマウントベッド株式会社は、センサーによる排泄ケアのDX化を提案。おむつへの排泄の自動検知や、トイレの利用および排泄物の状態の自動記録を実現しました。さらに「眠りCONNECT」と連携することで、排泄情報に加え、睡眠・体重・温湿度記録の一元管理も可能です。スタッフの負担を軽減することができ、離職防止にもつながっています。これらの排泄ケアDXソリューションは、「人間として当たり前のことを、当たり前にできるようにする」という想いから生まれたものです。テクノロジーの力で、人が「本当にやるべきこと」に集中できるように支援していきます。

トイレDIARY

便器に設置し、着座や尿や便の状態をAIが自動記録するシステム。職員が同室せず結果のみをアイコン通知するため、利用者のプライバシーと尊厳を最優先で守ります。



トイレ内の状況を共有

おむつCOLOR

紙おむつ内の色の変化から排泄をリアルタイム検知するセンサー。排泄タイミングを自動で可視化・蓄積し、個別の排泄リズムに基づいた先回りのケアを可能にします。



ベッドの上の状況を共有

眠りCONNECT (システム全体を統括するプラットフォーム)

海外展開

世界に持続可能な医療インフラを届け、医療格差解消に貢献

アジアや中南米を中心に拠点を展開し、各国固有の社会課題に合わせたソリューション提供を加速させています。単に製品を輸出するのではなく、インドでの新工場拡張による安定供給体制の構築や、インドネシア工場での環境配慮型ラインの導入など、現地に密着した事業活動を推進。また、新興国における看護技術の移転支援を通じて、教育・ソフト面でも貢献しています。各国のニーズに合わせた製品のローカライズと、現地の雇用創出やエンジニア育成を並行して行うことで、持続可能な医療インフラを世界各地で共創していきます。



PARAMOUNT BED
INDIA Private Limited.



八楽夢床業有限公司 上海事務所

PARAMOUNT BED
ASIA PACIFIC PTE.LTD.



PT. Paramount Bed
Indonesia

… 生産拠点

海外グループ会社 10拠点 4工場

PARAMOUNT BED
USA Corporation.



PARAMOUNT BED VIETNAM CO.,LTD.
PARAMOUNT BED VIETNAM TRADING CO.,LTD.

Paramount Bed
Mexico
S.A. de C.V.

PARAMOUNT BED
(THAILAND)CO.,LTD.

海外展開

遠隔医療DXにより ASEANに新たな医療インフラを構築

ASEAN地域における医療格差の解消に向け、日本発の遠隔医療DX技術を活用する構築実証事業を始動しました。この事業では、専門人材が不足する義肢装具分野において、3DスキャンやAI、3Dプリントを用いた遠隔製造技術を導入します。長年現地で培った病院ネットワークを基盤に、まずはインドネシアやタイで各国の環境に合わせた社会実装を推進。さらにベトナムでの展開も進め、他の遠隔医療DX領域への展開可能性を検証します。義肢装具製造を起点に、誰もが適切な医療へアクセスできる、持続可能な次世代の医療インフラ構築を目指します。

パラマウントの
強固なアジア病院ネットワークで、
この仕組みをASEANに拡大！



インド工場がグリーンビルディング認証を取得

2024年に操業を開始したインドのパワル工場は2026年3月、現地のグリーンビルディング認証制度「IGBC Green Factory Building Rating」のGold認証を取得しました。急速な経済成長が続くインドでは、環境課題への対応が社会的に重要なテーマとなっています。こうしたなか、当工場は環境配慮を設計思想として取り入れ、省エネルギーや資源の有効活用などの取り組みを進めてきました。なお、当社グループは2030年までに、インドにおける市場シェア3割を目指して活動してまいります。



グリーンビルディング認証制度のGOLD認証を取得

MATERIALITY 1 | 持続的な医療・介護体制整備の支援



インド・パワル工場（外観）



太陽光発電などの再生可能エネルギー活用を推進



MATERIALITY

2

すべての人が健康で いきいきと暮らせる環境づくり

健康であること、そして自分らしくあること。

それは、一人ひとりが健やかに暮らせる未来の原点です。

私たちは、それぞれのライフステージに寄り添い、

心地よい睡眠と、心身の豊かさを育む環境を追求。

年齢や環境を問わず、すべての人が輝ける社会の実現を目指して
歩みを進めています。

取り組みを通して達成を目指すSDGs項目



健康事業

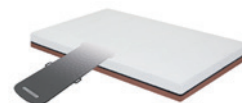
眠りで毎日に活力を。睡眠改善をサポートする健康ブランドを展開

現在、日本は先進国の中でも睡眠時間が最短レベルにあり、生産性損失という大きな社会課題に直面しています。この課題に対し、私たちは健康事業領域にて「Active Sleep」ブランドを展開。医療・介護で培ったスリープテックをベースに、自動で角度が変わるベッドをはじめ、個々の睡眠状態にフィットするマットレスや枕、ライトなど、多彩な睡眠サポート機器で眠りの質を高めてきました。

さらに現在は、睡眠を起点とした「運動」「美容」「IoT連携」といった多様な領域との新たな価値創造にも挑戦しています。CVC活動を通じて外部パートナーとの共創を加速し、睡眠課題の解決から、一人ひとりの活力の最大化をサポートしていきます。

睡眠課題

各種寝具や睡眠サポート機器



マットレス



枕



「Active Sleep BED」



睡眠サポート機器

新たな価値創造にチャレンジ【CVCを通じた共創】

Link

IoT連携

SISI

美容



女性の健康

TENTIAL

リカバリー

SOXAI

健康管理

Runtrip

運動

なぜ睡眠は重要？

毎日眠る理由は、日中に細胞レベルで受けた身体のダメージを修復するためです。睡眠中には、単に「疲れ」をとるだけでなく、脳や心臓などの重要な器官のメンテナンスが行われています。人間が進化の過程で、無防備で危険な「睡眠」という時間を無くせなかったほど、眠ることは生きるうえで不可欠な役割を担っています。

自動運転するベッド「Active Sleep BED」

「Active Sleep」は、睡眠パフォーマンスを最大限に高め、翌日をよりアクティブに過ごすための私たちの提案です。当社グループの研究では、ベッドの角度を変えることで睡眠の質が向上することがわかっています。そこで「Active Sleep BED」は、その日の気分やコンディションに合わせて背・膝・足の角度を調整できる「入眠角度」を提案。入眠後もベッドが静かにゆっくりと自動運転し、快適な寝返りや朝の目覚めをサポートします。2024年には初のフルモデルチェンジにより最大角度を拡大。座り姿勢でもソファのように快適に利用できるようになりました。

「Active Sleep BED」で提案する眠りの付加価値

「入眠角度」という新提案

ベッドの背を少し上げるだけで呼吸が楽になり、リラックスした入眠へと導かれます。これが私たちの提案する「入眠角度」。日々のわずかな体調変化に合わせ、その日の自分に最適な角度へ自由に変えられます。



ベッドの自動運転

熟睡を感知すると、入眠角度から寝返りしやすいフラットな状態へ自動でゆっくり移行。設定した起床時刻には、再び自動でベッドの背が上がり、身体に負担をかけない自然で心地よい目覚めを優しく促します。



マットレスの硬さを自在に調整

その日の体調に合わせた最高の寝心地を、100万通りの組み合わせからコントロール。頭や肩、腰など、身体の部位ごとに硬さを細かく調整できるため、どんな体型の方でも理想的な寝姿勢で快適に支えます。



KITTE大阪に「眠りギャラリー」を出店

2025年4月、JR大阪駅直結の商業施設「KITTE大阪」内に、直営店である「眠りギャラリー」を出店しました。商業施設に直営店を出店したのは初めてです。「KITTE大阪」が位置するうめきた地区は関西で最大規模の再開発が進み、注目度が高まっています。当地域において、利便性の高い商業施設に出店することで、より体験してもらいやすい環境を整えました。ギャラリーでは、ユーザー自身が背の角度を調整できる「Active Sleep BED」などを展示。実際にベッドの機能やマットレスの寝心地を体感していただけます。



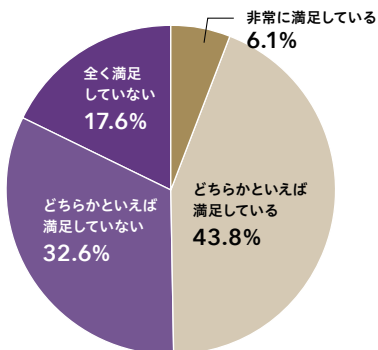
科学的なアプローチで、社会の「見えない睡眠課題」を解決する

現代社会には、本人すら気づかないうちに睡眠の質が低下するという課題が存在します。当社はこのような見えない睡眠課題に対し、「パラマウントベッド睡眠研究所」の科学的根拠と蓄積されたデータをもって実直に向き合っています。確かな研究成果を社会へ実装し、人々の豊かな日常を支えます。

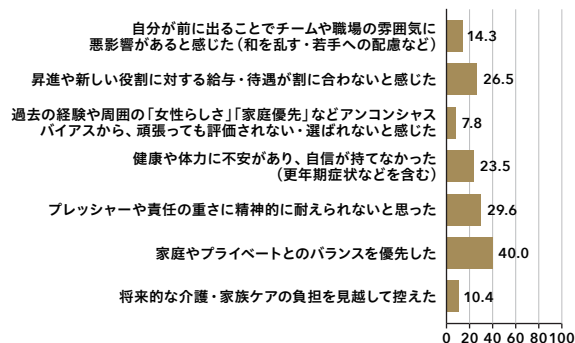
働く更年期世代の「静かな諦め」に向き合う「サイレント・シフト」

更年期世代の女性が健康課題により、周囲に相談できず静かにキャリアを離れていく「サイレント・シフト」。当社は株式会社社陽と人と共同で、45～55歳の働く女性2,000名への実態調査を実施しました。その結果、全体の約7割に不眠症状がある可能性が判明。慢性的な睡眠不足による日中のパフォーマンス低下や精神的なゆらぎが、放置できない深刻な不調のベースとなっている実態を浮き彫りにしました。この企業の「見えない人的損失」に直結する課題に対し、当社は「人的資本の沈黙」を解消する活動を推進。女性が生涯を通じて自分らしく輝き、持続可能に働き続けられる社会の実現を目指します。

キャリアや働き方への満足度



昇進を辞退した理由



調査結果をまとめた冊子

昇進意欲自体に差はないものの、新しい役割を辞退する背景には更年期症状の影響が示唆され、実際に23.5%が健康課題を理由に挙げています。不眠等の自覚は働き方の満足度や日々のパフォーマンス低下にも直結しています。

研究成果を社会へ実装し、睡眠から日常を豊かに

睡眠に関わる多様な課題と向き合い、解決することを使命とする「パラマウントベッド睡眠研究所」。最先端の寝具やセンサー技術を活用し、科学的根拠に基づいた研究開発を進めています。単に製品の付加価値を高めるだけでなく、蓄積されたデータや研究成果を広く社会へと実装。誰もが質の高い睡眠を得られる環境をシームレスに提供し、日々の生活の一部として世の中のウェルビーイング向上に役立つことを目指しています。



パラマウントベッド睡眠研究所のメンバー

ライフステージに寄り添い、体と心の軸を整える睡眠ケア

女性の体と心、そして睡眠の質は、女性ホルモンのバランスと密接に連動しています。パラマウントベッドは、ライフステージごとに変化する女性特有の課題に対し、自らを知り、健やかに働き続けるための具体的なセルフケアの仕組みを提供しています。

働く更年期女性の不調を可視化し伴走する法人向けサービス「Menorista. (メノリスタ)」

「Menorista.」は、更年期や月経周期に伴う睡眠・心身の不調に悩む女性をサポートするため、株式会社陽と人と共同で開発した新サービスです。独自のチェックツールによって個々の状態や不調のタイプを可視化し、エビデンスに基づいた最適な睡眠・生活習慣の改善アドバイスを提供します。ただ知識を得るだけでなく、日々の体調変化に寄り添いながら伴走することで、働く女性がパフォーマンスを維持し、自分らしいキャリアを諦めないためのセルフケアの定着を支えます。

Menorista. サービスの概要

女性従業員サポート	周囲の理解促進	組織分析	
「自分の身体を知る」ことから始める実践的な研修・ワークショップ 全女性従業員向け 	データと対話で自分を知り、整える 不調を抱える女性従業員向け 	理解を「腹落ち」に変えるアクティブラーニング型の研修 全社員対象 	“変化”を見える化し組織の学びへ 経営層、サービス導入ご担当者様等 

 Menorista. (メノリスタ)

「90日 わたしをみつめるねむりDIARY」

眠りと女性ホルモンのバランスには、密接な関係があります。「90日 わたしをみつめるねむりDIARY」は、「女性ホルモンの性質とライフステージを理解し、毎日の眠りを中心に生活習慣を見直し、体と心の軸を整えることで健やかな日々を送れる」との考えに基づいたセルフケアツールです。眠りと女性ホルモンに関する情報が満載なほか、オリジナルワークシートに睡眠状況や月経周期を記入することで、自分の体と心の状態を知ることにつながります。



一生を支える「眠る力」を。子どもたちの健やかな成長を育む睡眠学習

成長期の子どもの脳の発達を支える睡眠ですが、現代社会では睡眠不足や生活リズムの乱れが深刻な課題です。当社は、睡眠の専門知識を次世代へ届ける「眠育」を推進。子どもたちが睡眠の重要性を自ら学び、正しい生活習慣を身につけるための教育支援を通じて、未来の健康と可能性を広げていきます。



中学生向け睡眠教育プログラムを提供

「睡眠の大切さ」を学べる中学生向けの教材パッケージを、2022年より無料提供しています。学習指導要領に準拠しつつ、当社の知見を活かして開発された完全オリジナルの教材です。2025年3月までに累計約7万人の生徒に提供しており、今後もさらに多くの方々へ「睡眠授業」が届くことを期待しています。

[WELL-BEING for サイト 関連記事](#)



小学生向け副教材も制作

教育現場からの要望を受け、副教材「未来をつくる すいみんにドキドキ」も制作。2025年10月より、東京都・大阪府・京都府の小学校4～6年生を主な対象として2万部を無料で提供しました。当社グループの公式キャラクター「ぱらきち」も登場し、子どもたちが楽しく学べる工夫が盛り込まれています。

[WELL-BEING for サイト 関連記事](#)



スポーツの未来を睡眠で支えるアスリート支援

当社グループは、質の高い睡眠を通じてアスリートが最大限のパフォーマンスを発揮できるよう、製品提供や睡眠改善のサポートを行っています。過酷な挑戦を続ける選手や競技環境に寄り添い、睡眠の力でスポーツ界の発展とウェルビーイングに貢献します。

2026年アジア選手権優勝の快挙を支える

パラカヌーの瀬立モニカ選手が、2026年のアジア選手権で見事優勝を果たしました。当社は2015年から10年以上にわたり、独自の睡眠データ分析や寝心地の調整を通じて彼女のコンディショニングを伴走。日々の過酷な練習による疲労をリフレッシュさせ、世界の頂点へと挑み続ける圧倒的なパフォーマンスを支えています。

[WELL-BEING for サイト 関連記事](#)



ラグビー強化拠点JAPAN BASEへ製品導入

日本ラグビーフットボール協会の福岡の強化拠点「JAPAN BASE」の宿泊棟に、当社の睡眠計測センサーなどが導入されました。激しいコンタクトやハードな練習を重ねる代表選手たちの疲労回復には、質の高い睡眠が不可欠です。最先端の睡眠環境を提供することで、世界に挑むラグビー日本代表の強化を足元から支えています。



日清食品と挑む「食×睡眠」の新ウェルビーイング

当社は日清食品株式会社と共同で、一般生活者3万人を対象とした大規模調査を基に「『食』と『睡眠』によるウェルビーイング向上プロジェクト」を始動しました。両社従業員による1か月の検証では、幸福度の指標が約10%向上し、生産性向上や不眠リスク低減といった具体的な効果を実証しています。この知見を基に開発したのが、幸福の価値観を7つのキャラクターに分類する「幸せタイプ診断」です。個々の価値観に合わせた無理のない「食と睡眠のゴールデンアクション（推奨行動）」を提案することで、一人ひとりが自分らしい幸せを見つけ、日常をより心地よく、豊かに変えていくための歩みを支えてまいります。



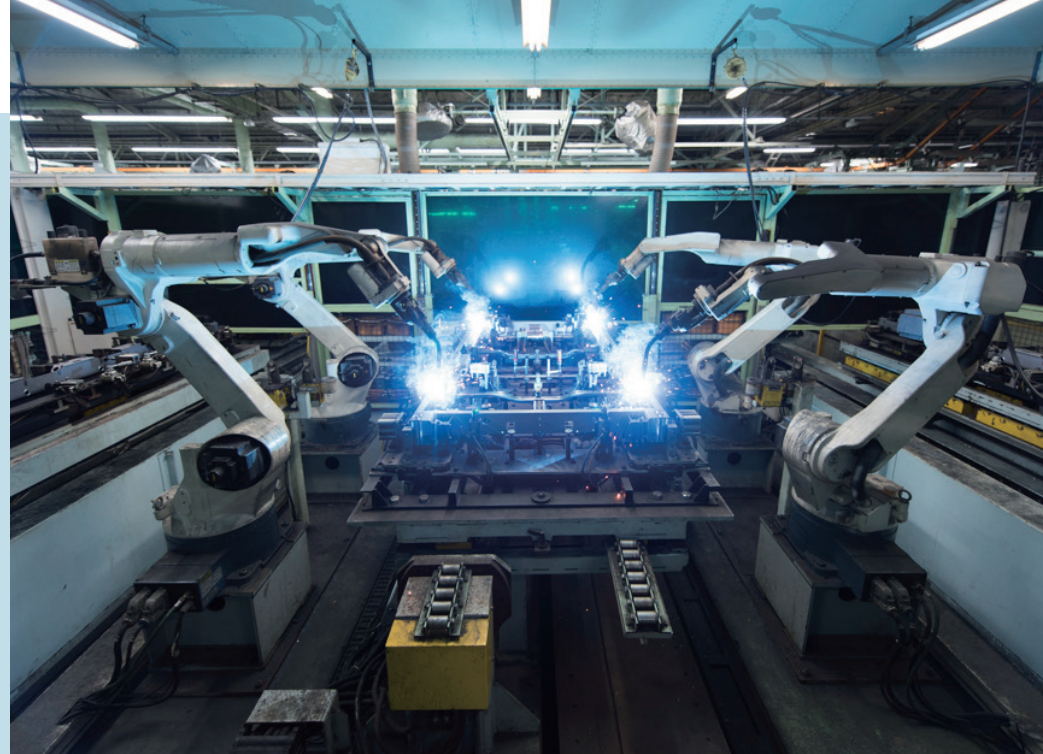
[「幸せタイプ診断」](#)

MATERIALITY

3

製品安全の追求

命や暮らしに寄り添う製品だからこそ、
「安全」の追求に終わりはありません。
厳格な品質管理と、使う人の視点に立った設計。
日々、技術と向き合い、安全性を磨き続ける。
お客さまが安心して過ごす毎日を支えるために、
私たちが徹底して貫く、ものづくりの姿勢を伝えます。



取り組みを通して達成を目指すSDGs項目



開発からレンタルまで貫く安全の追求

メーカーとしての「確かなものづくり」と、レンタル卸としての「徹底した衛生管理」。2つの機能が紡ぐ高度な品質管理体制で、お使いいただくすべての方へ変わらない安心をお届けします。

メーカー

- 効率のよい一貫生産体制
- 徹底した品質管理
- 国内外の連携による世界最適地生産体制

主力を担う千葉工場では、ベッドの生産ラインを中心に原材料から完成品までの一貫生産体制を構築しています。製造ラインをパターン化し、溶接から塗装、組立までの工程間を切れ目なく連続的に搬送することで、製造リードタイムの短縮と工程間在庫の最少化を実現。同時に、電力使用量や廃棄物量の削減など環境負荷低減も図っています。また品質管理面では、創業からのノウハウに最先端システムを組み合わせ、目視や手感による入念な検査や金属探知機での異物検査を徹底。本社・工場は国際規格「ISO9001」および「ISO13485」の認証を取得しています。

レンタル卸

- 迅速な対応が可能な、全国の店舗ネットワーク
- 清潔で安全・安心な製品を提供するメンテナンス体制

メンテナンスの行き届いた福祉用具を、必要なときにすぐにお届けできる全国ネットワークを構築し、安全・安心のための品質管理を徹底しています。洗浄・消毒工程では、自社開発の自動洗浄機により業務効率化と品質向上を両立。エタノール系製剤の噴霧や高圧水洗いに加え、食材の殺菌にも使われる環境にやさしい微酸性電解水のかけ流しや、オゾンによる確実な殺菌消毒を行っています。さらに、消毒済みの用具は定期的な抜き取り菌検査を実施し、その有効性を客観的に検証することで、万全の衛生管理を維持しています。



転倒転落研究会 (RoomT2) の活動支援

私たちは、医療安全管理者の交流する場である「転倒転落研究会 (RoomT2)」の活動を支援しています。「転倒転落事故による傷害0を目指して、エビデンスと知見を広めていく」という想いから、転倒転落対策のアプローチや、取り組み事例などを共有しています。その根底にあるのは、単に身体拘束や活動制限で動きを止めるのではなく、患者の自立と安全な療養環境を両立させるという視点です。最新のセンサー技術やベッドの工夫を現場の知見と融合させ、生活の質を守りながら事故を防ぐ仕組みづくりを推進しています。



活動レポートの発行



成果を上げる計画立案や院内標準化の事例に加え、「体動センサ」の睡眠データを活用した個別看護による、実践的な転倒転落対策を紹介しています。

インドネシアと日本でグッドデザイン賞を受賞

PT. Paramount Bed Indonesiaが開発したアジア・中南米向けの医療用ストレッチャーが、インドネシアの「Good Design Indonesia」においてTop10に選出され、「Best Design」を受賞しました。さらに、日本の「2025年度グッドデザイン賞」も併せて受賞しています。本製品は、患者の搬送をより安全かつ効率的に行うことを目的として開発され、安全性と効率性の両面を兼ね備えたデザインが高く評価されました。



K6 Transport Stretcher



Good Design
Indonesia



GOOD DESIGN
AWARD



MATERIALITY

4

従業員の健康・ダイバーシティ・働き方改革の推進

互いに尊重し合い、対話を尽くすことから、新しい挑戦が生まれます。
従業員が心身ともに健康で自分らしく輝けるよう、
多様な個性を認め合い、柔軟に働ける環境づくりを推進。
人と組織がともに育ち、新たな価値を創造する取り組みを伝えます。

取り組みを通して達成を目指すSDGs項目



WELL-BEINGを支える「人」と「組織」の基盤をつくる

人財育成

軸となる考え

- 「やりがいの創出」
- 「成長支援」

取り組み

- 従業員全体の育成強化
- グローバル人財の採用・育成



ビジョン実現に向け、企業の源泉である人財基盤の強化に注力しています。「やりがいの創出」と「成長支援」を軸に、採用からリーダーシップ育成まで多角的に推進。従業員全体の育成とグローバル人財の強化を通じ、未来を自ら創造できる強い組織を築きます。

社内環境整備

目指す風土

- 「コミュニケーションを尽くす風土」
- 「挑戦を援ける風土」
- 「一人ひとりを尊重する風土」

取り組み

- ダイバーシティの推進
- 従業員の健康への取り組み
- 働き方改革の推進
- DEIの推進



多様な感性を製品やサービスに生かすため、互いを尊重し、健康に働けるウェルビーイングな環境づくりを進めています。「コミュニケーション」と「挑戦」を援ける風土のもと、DEIや健康経営、働き方改革を推進し、多様な人財が活躍できる組織を目指します。

人財育成

自発的な「学習」と「挑戦」の連鎖が、革新的な価値を生む

従業員の「成長したい」という意欲を後押しするため、私たちは「学習」と「経験」を循環させる仕組みを整えています。

学びのプラットフォーム「パラマウントキャンパス」で蓄えた知識を、自らのぞむキャリアに挑む「キャリアチャレンジ制度」で形にする。このサイクルが組織の活力を生んでいます。

■ 従業員全体の育成強化

学 習

従業員の学ぶ意欲と行動力を後押しする自己啓発制度として、学びの集合体である「パラマウントキャンパス」を整備。220を超える通信教育講座を提供しています。さらに、学びをポイント化して昇格要件に組み込むことで、従業員の成長をうながします。また、高度専門人財の育成を目的としたビジネススクールや大学院への派遣、DX講座の開設など、多様な学習支援施策を実施しています。

通信教育講座「パラマウントキャンパス」の受講者数

2025/3 **819**名 2026/3 **976**名



経 験

一人ひとりの特性や期待される役割を明確にし、能力開発と評価を紐づけた新たな人事制度を導入し、従業員のチャレンジと学びを推進。また、新しいことへのチャレンジを希望する従業員を後押しする、「キャリアチャレンジ制度」を整備し、現在までに19名が活用しています。さらに、グループ会社の垣根を越えた人財交流を行っています。適材適所の実現に向けて、職種別人財像や能力の「見える化」を進め、より適切な配置・教育の実現を推進していきます。

■ グローバル人財の採用・育成

グローバル化への対応力を高めるため、高度な語学力を持つ人財や、海外で活躍したいという強い意欲を持つ人財を積極的に採用しています。入社後もTOEIC®のスコアアップ支援に向けた語学教育を充実させているほか、2020年にはキャリアチャレンジ制度の一環として「海外トレーニー制度」を設置。公募によって期間限定の海外勤務を体験することができる取り組みです。



社内環境整備

多様性を力に変え、全員が「自分らしく」輝ける組織へ

2025年9月、従来掲げてきた「コミュニケーションを尽くす風土」「挑戦を援ける風土」に加え、「一人ひとりを尊重する風土」を目指すべき風土として新たに決めました。

性別や年齢、国籍などにかかわらず、対話と尊重をベースにDEI（多様性・公平性・包括性）を加速させています。

■ DEIの推進に向けて

DEI（多様性・公平性・包括性）推進の本格化に向けて、まずは社内での意識改革を促すためのプロジェクトを開始しました。経営層から段階的に、DEIへの理解を深めるワークショップやディスカッションを行っています。また、多様な人材の活躍を促進するため、働き方に関する各種制度を整備しています。ジェンダーギャップ解消に向けては、管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率、新卒採用における女性比率（入社人数比）の各指標に対して目標を設定。達成に向けた施策を実行しています。これらの取り組みにより、従業員一人ひとりが公平に活躍できる職場をつくります。

新卒採用における女性比率（入社人数比）

	2025/3	2026/3	毎期目標
パラマウントベッド株式会社	37.5%	50.0%	30%
パラマウントケアサービス株式会社	30.0%	57.1%	30%

※パラテクノ株式会社においては、新卒採用を行っておりません。

挑戦する社員たち



大槻 朋子

パラマウントベッド株式会社
経営企画本部 マネージャー
プロジェクトリーダー

【WE CHANGE AWARDS 2025】個人部門 入賞

ソーシャル経済メディア株式会社NewsPicks Studiosが主催する「WE CHANGE AWARDS」は、女性が活躍する社会に向けて「本質的な変化」が求められている中、柔軟に経験を積み重ねている次世代の女性リーダーや、「本気で変わろうとしている」企業を発掘するアワードです。パラマウントベッド株式会社の大槻朋子さんが、2025年の本アワード個人部門で入賞しました。産後の経験から「Sleep × Femtech」事業を立ち上げ、サービスローンチまでいたったことが評価されました。

「Tsubaki Project」

女性をはじめとする多様な視点を生かす「Tsubaki Project」では、産科・小児科領域における製品開発や、企画・マーケティング活動などに取り組んでいます。同プロジェクトから生まれた製品は、「第11回キッズデザイン賞」の奨励賞（キッズデザイン協議会会長賞）や「第5回かわいい感性デザイン賞」の企画賞、「ウェルビーイング・アワード2026」モノ・サービス部門におけるGOLDを受賞しています。



社内環境整備

個人のライフスタイルと調和する職場環境づくり

一人ひとりのライフステージに応じたワークライフマネジメントを確立するため、柔軟な働き方と、信頼関係を築くためのコミュニケーションを大切にしています。多様な人財が活躍できる環境整備に向け、画一的な枠組みにとられない選択肢の拡充に努めています。

■「休む側」も「支える側」も尊重する制度

育児休業制度の利用率を高めるため、育児休業は取得するのが当たり前であり、仮に取得しない場合はその理由を申請しなければならない仕組みとしました。また、休業者の業務を引き継ぐ社員をサポートするため、「休業フォロー制度」を採用しています。業務量増加に対する金銭的サポートを行うとともに、休業取得者の心理的安全性を支えることを目的としています。

男性労働者の育児休業取得率

	2025/3	2026/3	2029/3 (目標)
パラマウントベッド株式会社	66.7%	89.7	85%
パラテクノ株式会社	81.8%	109.1※	50%
パラマウントケアサービス株式会社	71.4%	45.0	50%

※育児休業取得率は、2022年より育児介護休業法に基づく以下の算定方法に変更
2024年に1回目の育児に伴う休業を取得した男性社員数÷2024年に子供が生まれた男性社員数×100
パラマウントは育児休業取得率の算出対象となる取得必須の有給育児休暇制度に基づく育児休業取得率の算出においては、事業年度と当該休暇や育児休業の取得期限が異なっていることにより、分子と分母の対象者の範囲が異なるため、必ずしも100%にはなりません。

制度利用者の声



平山 光良
パラマウントベッド株式会社
営業本部 大阪支店
医療事業課

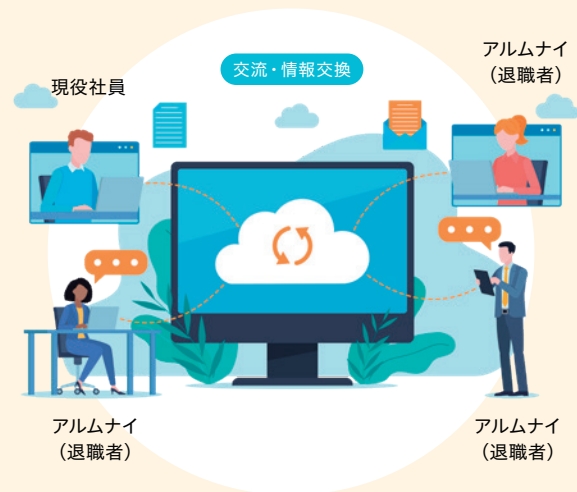
育休の経験を生かし、 家族とすべての人にウェルビーイングを

私の勤務する大阪支店には「育休取得は当たり前」という風土があり、気兼ねなく育休を取得できました。休業期間は、子どもが生まれてまだ3週間ほどの、一番手探りな時期からの約1か月間。初めての子育てはわからないことの連続で、寝ていた子どもが起きたり泣いたりするたびに、対応に追われました。特に子どもが突然体調を崩したときなどは、夫婦で協力しなければ、冷静に対処するのは難しかったかもしれません。

この経験を通じて「家族で助け合う大切さ」を実感したからこそ、復職の際には、育児休業を続ける妻と今後も支え合っていくための環境づくりができました。また、この育休は周産期医療向けなどのケア製品の価値を、実際に使用する立場として再認識する機会にもなりました。現場のリアルを肌で感じて獲得した徹底的なユーザー視点を生かし、これからもより多くの人へウェルビーイングを届けていきます。

アルムナイネットワークの本格運用

2021年に社内ですtartした「若手提言プロジェクト」をきっかけに、当社で働いたご縁のあるアルムナイ（退職者）と公式につながり続けるネットワークを導入しました。本ネットワークでは、現役社員とアルムナイ、またアルムナイ同士の交流・情報交換を促進します。この取り組みはダイバーシティ推進の一環であり、現役社員とアルムナイ一人ひとりのキャリアに寄り添うことで、風通しのよい環境づくりにつなげていきます。



家族との絆を深めるファミリーデーを開催

社員と家族の相互理解を深める「ファミリーデー」。国内では明治神宮球場を貸し切り、プロが立つグラウンドの開放やスタジアムツアー、スポーツフェスティバルなどを開催しました。普段は見られない職場の仲間の姿や特別な体験に、参加した家族からは多くの笑みがこぼれました。メキシコなどの海外法人でも趣向を凝らしたイベントを実施しており、今後も対話を尽くし、互いを尊重し合える温かい組織風土づくりを推進します。



パラマウントファミリーデー

[WELL-BEING for サイト 関連記事](#)



パラマウントベッド・メキシコ「ファミリーデー」

[WELL-BEING for サイト 関連記事](#)

くるみん認定を取得

当社は2025年9月、厚生労働省より「くるみん認定」を取得しました。育児休業制度の利用促進や時短勤務などを推進したことが認定取得につながりました。今後も子育て支援に取り組み、働きやすい職場づくりを進めます。



健康経営優良法人の認定を取得

パラマウントベッドホールディングス株式会社およびグループ会社3社が「健康経営優良法人2026（大規模法人部門）」に認定されました。今後も健康経営を推進し、従業員の健康促進に取り組んでいきます。



MATERIALITY

5

環境に配慮した事業活動

豊かな地球環境は、健やかな暮らしの基盤です。

私たちは、製品のライフサイクル全体を見据え、
脱炭素社会や循環型社会の実現に挑んでいます。

ものづくりを通じた環境負荷の低減に向けて、
未来の地球へ、確かな安心をつなぐ活動を伝えます。



取り組みを通して達成を目指すSDGs項目



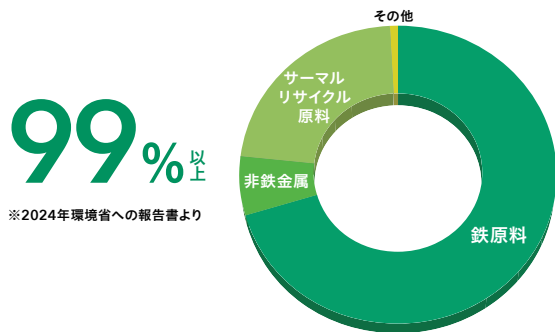
製品を資源として未来へつなぐ「RE-BED project」

金属資源の枯渇が懸念される中、私たちは「広域認定制度」を活用し、自社製品を責任を持って回収・再資源化する「RE-BED project」を推進しています。

2050年には鉄鉱石も含めたほとんどの金属が現有埋蔵量を使い切ってしまうといわれており、リサイクル技術の革新が求められています。当社では広域認定制度を活用し、自社製品をリサイクルする「RE-BED project」を実施しています。本プロジェクトは、医療施設をはじめ、高齢者施設、福祉用具レンタル事業者の皆さまから、使用済みとなった当社製のベッドやマットレス、柵や手すりなどを回収・分別・解体し、金属や燃料などへ99%以上再資源化するものです。再資源化の過程においては、スクラップ材を再利用した電炉材を採用。従来の鋼材に比べてCO₂排出量を削減することができ、地球温暖化対策に貢献します。これまでに全国約2,700事業所のお客さまに当社の取り組みをご活用いただいています。

回収したベッドの再資源化率

99%以上の高い水準で再資源化できています。

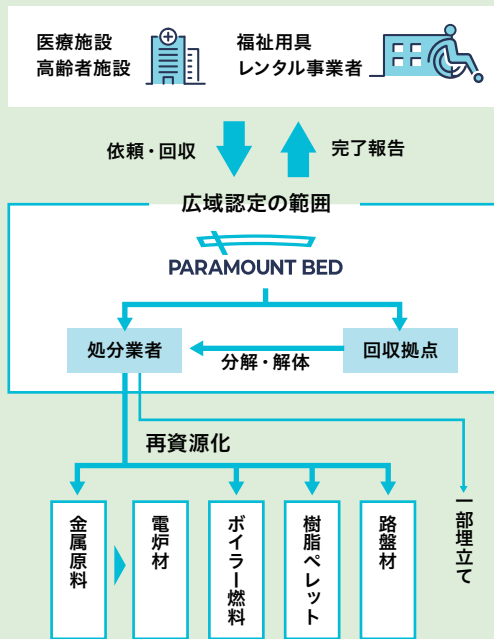


広域認定による当社の累計処理量

広域認定による当社の処理量は年々拡大しています。



再資源化の流れ



眠りの質を、地球の生命力へ

毎日の心地よい眠りが、地球の豊かな未来を育む。睡眠データの蓄積でマングローブを植林する、サステナブルな挑戦の軌跡。

「いい眠り」が、インドネシアの豊かな森を育てる。当社の睡眠アプリ「Active Sleep App」に蓄積されるユーザーの睡眠スコア（眠りのポイント）に応じてマングローブの植林を実施するこのプロジェクトは、2026年3月現在、累計86,450本の植林を達成しています。取り組みの原点は、2020年の健康事業の本格化。ユーザー層の広がりに伴い、環境貢献の輪もさらに大きく広げたいという想いから2022年3月にプロジェクトが始動しました。“わたし”のウェルビーイングを高めるアクションが、そのまま“地球”のウェルビーイングに還元される——。この循環のストーリーが、ユーザーの睡眠改善に向けた前向きなモチベーションとなっています。私たちはこれからも、お客さまとともに地球の未来を守る広大な森を育ててまいります。



植林したマングローブの現在の様子と、
養殖したバナメイエビ



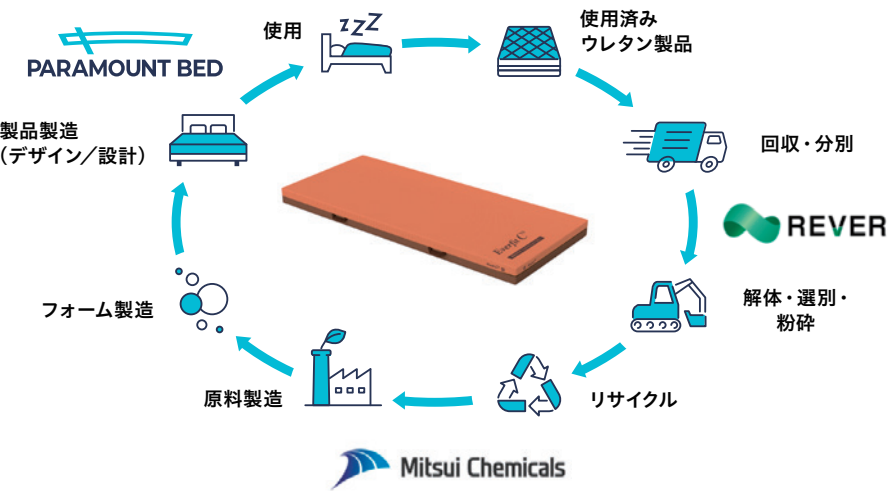
なぜマングローブなの？

他の森林に比べCO₂の吸収・貯蔵能力が非常に高く、日本の森林の約2倍の効果があるといわれているためです。地球温暖化防止と沿岸の生態系保全の双方に大きく貢献できる、地球にとって極めて重要な森です。



廃棄困難な「ベッドマットレス」を再び資源へ。3社共創の挑戦。

高齢化が進む日本ではベッドマットレスの需要が増し、廃棄される数量も増加することが見込まれています。一方で、マットレスは廃棄物としての処理が難しく、リサイクルの仕組みも日本にはまだありません。社会課題を解決するため、三井化学株式会社、リバー株式会社と連携して、使用済みのマットレスから新しいマットレスを再生産するプロジェクトに取り組んでいます。循環型社会の実現に向けて、3社で議論・実証を進めていきます。



関連動画を見る

徹底した省エネと再生可能エネルギーの導入拡大

当社グループは、企業活動や製品のライフサイクル全体にわたって、環境負荷の低減を目指しています。気候変動に係るリスクおよび機会が、当社グループの事業活動や収益などに与える影響は、気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 提言に沿って整理しています。2026年3月期のGHG排出量は基準年度である2014年3月期比マイナス43.9%の3,821tCO₂となりました。2050年のカーボンニュートラル実現を目指し、さらなる削減活動に取り組みます。

Scope1 / Scope2排出量

基準年度 2014/3	目標 2031/3	2024/3	2025/3	2026/3
6,813t CO ₂	30% 削減	3,855t CO ₂	4,110t CO ₂	3,821t CO ₂

※指標はScope1/Scope2に該当するGHG排出量とし、算定対象はパラマウントベッドホールディングス株式会社・パラマウントベッド株式会社としました。



TCFD開示情報の詳細は当社Webサイトをご覧ください



MATERIALITY

6

コンプライアンスの徹底

健全な経営と、誠実な行動の積み重ねこそが、
私たちの未来を支えます。

従業員一人ひとりが正しい判断基準を持ち、
公正で透明なビジネスを徹底していくこと。
社会の期待に応え、信頼され続けるための取り組みです。

取り組みを通して達成を目指すSDGs項目



コンプライアンス

基本的な考え方

パラマウントベッドグループは、企業理念およびグループ企業行動憲章を定め、事業活動を通じて社会貢献を実践することで社会的責任を果たし、企業価値の一層の向上に努めます。

主な取り組み

企業倫理の取り組み

- ・コンプライアンス研修の実施
- ・企業倫理ガイドブックの作成や研修での活用
- ・企業倫理室からのメッセージの定期配信

透明性の高いガバナンスの推進

- ・従業員意識調査の適時実施
- ・相談・通報窓口の設置
- ・遵守状況の多面的なモニタリング

グループ企業行動憲章

「グループ企業行動憲章」は、企業理念の実現をより確かなものとするため、グループ社員の一人ひとりの行動の規範・よりどころを示したものです。この憲章は、パラマウントベッドグループの役員・社員全員が「医療」「介護」から「健康」まですべての人にかかわる企業の一員として、また社会の一員としてどのような行動をとるべきなのかということについての基本原則をあらわしたものです。この憲章が各グループ会社の従業員へ浸透・定着するよう取り組んでいます。

私たちは全員参加で、「医療」「介護」から「健康」まですべての人にかかわる企業としての社会的使命と社会の一員としての責任を自覚し、以下の原則に則って誠実に行動します。

1. お客様に満足していただける安全で高品質な製品・サービスを提供することにより、あらゆる人の健康的な日々とよりよい人生の実現に向け、貢献します。
2. 事業活動にかかわる関連法規や社会の正しいルールを理解・遵守し、高い倫理観をもって誠実かつ公正に行動します。
3. 企業情報を適切に管理するとともに、適時適切に情報を開示し、社会からの理解と信頼を築いていきます。
4. 地球環境の保全を目指し、環境に配慮した事業活動を行います。
5. 従業員一人ひとりの多様性や価値観、働き方を尊重します。
人権方針をさだめ、すべてのステークホルダーによる人種、民族、宗教、年齢、国籍、出身、性別、性的指向、性自認、妊娠、婚姻関係、学歴、政治的見解、健康状態等による差別行為を一切容認しません。
6. 国や地域の文化・慣習を尊重し、社会の発展や向上に貢献します。
7. 取引先・協力企業とともに、バリューチェーン全体で人権・労働・環境への配慮を徹底し、持続可能な取引関係を築きます。
8. 経営トップは、本憲章に則り率先垂範して行動します。万一本憲章に反する事態が発生したときは、経営トップ自らの責任で問題解決に取り組み、原因究明・再発防止に努めます。

リスクマネジメント

基本的な考え方

当社グループは、全社的なリスク管理体制の強化を目指し、リスク管理基本規程を制定し、個々のリスクごとに責任部署を定めリスク管理を行っております。万一重大なリスクが発生したとき、もしくは発生するおそれがある場合には、同規程に基づき、原則として代表取締役社長を対策本部長とした緊急対策本部を直ちに招集します。必要に応じて外部の専門家（顧問弁護士・税理士等）の指導助言を受け、迅速な対応を行うことで被害の最小化に努めるとともに、再発防止の対策を講じる体制をとっております。

事業等のリスクと対応策の例

主なリスク	対応策
事業環境等における制度変更等のリスク 主力製品である医療・介護用ベッドは、公的制度のもとで公定価格（診療報酬・介護報酬）が設定されている製品ではないものの、医療保険制度または介護保険制度等に係る制度変更や定期的な公定価格の改定の影響により、当社グループの最終顧客である医療施設等の設備投資が減少するリスク。	医療・介護の分野で長年培ってきた技術や知見をもとにした健康の分野での取り組みの強化。
海外市場での事業拡大に伴うリスク 輸出・輸入規制の変更、技術・製造インフラの未整備や人材の確保の難しさ等、国内市場では通常想定されないリスク。	生産拠点・販売拠点の所在する国・販売する地域における政治・経済・社会的状況や関連する規制等の情報（特に各国の環境関連規制、製品の安全性・品質関連規制、医療機器登録関連規制等の強化、変更等）の日々の収集と必要な対応の実施。
特定の資材等の調達に伴うリスク 当社グループに不可欠な資材の供給に遅延・中断があり、当該資材の供給不足が生じ、タイムリーに調達できないリスク。	仕入れ先や供給品の切り替え先、代替策の拡充。汎用部品の採用。
製品や部品（製品等）の欠陥によるリスク 予測し得ない製品等の欠陥が生じ、それが大規模な無償交換（リコール）につながり、多大な費用負担が発生し、当社グループの社会的な信用が低下するリスク。	品質システムに関する国際規格や各種の自社基準に基づく製造など、製品の品質管理への万全の体制整備。賠償責任保険の付保。
自然災害等によるリスク 地震等の自然災害または大規模火災等により、当社グループや調達先の生産拠点に重大な損害が発生し、操業中止、生産や出荷の遅延や減少等が発生するリスク。	大地震等の発生を想定した事業継続計画（BCP）の策定、安否確認システムや緊急時の連絡網の整備、定期的な訓練の実施。
情報セキュリティに関するリスク クラウドサービスやネットワークの大規模な障害、サイバー攻撃等の想定を超える出来事により、情報システムの停止や情報流出が発生し、当社グループの社会的な信用が低下するリスク。	損害賠償保険に加入するとともに、従業員の情報セキュリティ意識を向上させるなどの取り組みを実施。

人権への取り組み

経営理念を実現するうえでのグループ従業員一人ひとりの行動規範を示す「パラマウントベッドグループ企業行動憲章」にて人権の尊重を掲げており、本方針において、当社グループの人権尊重に対する考え方を改めて明確にしました。

1. 人権に対する基本的な考え方

当社グループのビジネスが、直接または間接的に人権に影響を及ぼす可能性があることを理解しています。「国際人権章典」及び国際労働機関（ILO）の「労働における基本的原則及び権利に関する宣言」に規定された人権を尊重するとともに、「国連ビジネスと人権に関する指導原則」を支持し、実践に向け取り組みます。

「国際人権章典」は、「世界人権宣言」、「市民的及び政治的権利に関する国際規約」、「経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約」という3つの文書の総称です。「国際人権章典」は、国際的に認められた人権保障の基本的な枠組みとされています。

「労働における基本的原則及び権利に関する宣言」には、「結社の自由及び団体交渉権」、「強制労働の禁止」、「児童労働の実効的な廃止」、「雇用及び職業における差別の排除」が謳われています。

2. 人権方針の適用範囲

本方針は、当社グループのすべての役員及び従業員に適用します。また、取引関係のあるビジネスパートナーの皆様に対しても、本方針への理解と支持を求め、ともに人権の尊重に取り組むように働きかけます。

3. 人権尊重への取り組み

ともに働く人々や従業員一人ひとりの多様性や価値観、働き方を尊重し、人種、民族、宗教、年齢、国籍、出身、性別、性的指向、性自認、妊娠、婚姻関係、学歴、政治的見解、健康状態等による差別行為を一切容認せず、児童労働や強制労働、あらゆる種類のいじめ・ハラスメントを禁止します。また、ダイバーシティ&インクルージョンを推進するとともに、従業員の不安や悩みを解消し、一人ひとりがいきいきと活躍するための安全で働きやすい職場環境の提供に努めます。

4. 人権方針の周知浸透・教育

従業員全体の人権の尊重に対する意識を強化し人権侵害リスクを低減するために、人権方針の浸透、遵守に向けて、教育・啓発に継続的に取り組みます。

5. 人権に関するガバナンス体制

人権尊重の取り組みに対して、企業倫理担当部門にて関係部門と連携しながら施策の実施・管理を行います。取り組みの結果は、適宜取締役会に報告をされています。

6. 人権デュー・デリジェンスの実施

様々なステークホルダーとの対話を通じて、自社の事業活動が人権に及ぼす負の影響の把握、予防、軽減に適切に対処するように努めます。

7. 是正・救済

当社グループのビジネスにおいて、人権に対する負の影響の誘発・助長等が明らかになった場合、関係者と対話し、適切な手続きを通じてその是正及び救済措置を講じるように努めます。

また、取引関係のあるビジネスパートナーを通じて、当社グループの事業、製品またはサービスが人権への負の影響に直接関連していることが明らかとなった場合には、当該ビジネスパートナーに対して是正を働きかけます。

8. ステークホルダーとの対話・協議

当社グループの事業活動の影響を受ける人々の意見を確認し理解することの重要性を認識しており、ステークホルダーとの対話と協議を真摯に行うことで人権を尊重していきます。

9. 情報開示

当社HP等の媒体を通じて人権尊重の取り組みについて適宜適切に開示をしていきます。

Corporate Governance

社会の信頼に応える経営基盤

誠実で透明性の高い経営を実践し、持続的な企業価値の向上を目指すこと。

それは、社会からの信頼に応え、未来の成長を確かなものにするための約束です。

多彩な専門性を持つリーダーたちが、多様な視点で対話を重ね、

健全で強固なガバナンス体制を日々進化させています。

主な機関の機能・役割

機関	構成	活動・役割
取締役会	議長：代表取締役社長 社内取締役5名、 社外取締役4名で構成	原則として毎月1回開催し、法令で定められた事項や経営上重要な事項について議論し迅速な意思決定を行っています。
監査等委員会	社内取締役1名、 社外取締役4名で構成	原則として毎月1回開催し、監査等委員会が定めた監査方針、業務の分担および年度計画に基づき、事業所の実地監査を行うとともに、経営会議などの重要な会議への出席、取締役等から営業報告の聴取、重要書類の閲覧を行うなどして、厳正な監査を実施します。
経営会議	パラマウントベッド グループの経営幹部等で構成	原則として毎月1回開催し、さまざまな経営課題を幅広く取り上げ活発な議論を行い、経営活動の最適化を図っています。
指名・報酬 諮問委員会	社内取締役1名、 社外取締役4名で構成	取締役候補の指名および監査等委員を除く取締役の報酬等に係る取締役会の機能の独立性・客観性と説明責任を強化し、コーポレート・ガバナンスのさらなる充実を図るため、取締役会の任意の諮問機関として設置しています。
サステナビリティ委員会	委員長および関連部門の 担当メンバー等で構成	気候変動や人的資本などのサステナビリティ課題に関する基本戦略、活動の実施状況、情報開示等について議論し、適宜取締役会に上程・報告をします。
内部監査室	室長および構成員3名	内部監査規程に基づき、当社および連結子会社を含めた全部門を対象に業務監査および会計監査を計画的に実施しています。監査の実効性を確保するため、改善事項を指摘された被監査部門は、改善の進捗状況を定期的に報告する義務があります。
内部統制部門	主に企業倫理室および財務部	企業倫理室は、グループの各部門と連携しながらコンプライアンス推進のための諸政策を実施しています。また、会社としての企業倫理の基本姿勢等を盛り込んだ「コンプライアンスマニュアル」を含む『企業倫理ガイドブック』を配布し、社員の啓発・指導を行っています。また、業務の適法性についての啓発・指導とモニタリングを継続的に行っています。一方、財務部は、財務報告に係る内部統制についての啓発・指導とモニタリングを継続的に行っています。

役員紹介 (2026年6月30日現在)



- 1 代表取締役社長
木村 友彦
- 2 代表取締役副社長
木村 陽祐
- 3 常務取締役
八田 俊之
- 4 取締役
小林 正樹
- 5 取締役(常勤監査等委員)
大内 健司
- 6 社外取締役(監査等委員)
後藤 芳一
- 7 社外取締役(監査等委員)
高橋 一夫
- 8 社外取締役(監査等委員)
白井 あれい
- 9 社外取締役(監査等委員)
播磨 奈央子

役員紹介 (2026年6月30日現在)

代表取締役社長
木村 友彦
1977年7月17日生

- 2008年 4月 パラマウントベッド株式会社入社
- 2010年 6月 同社執行役員事業戦略本部副本部長
- 2011年 4月 同社執行役員国際事業本部長
- 10月 当社執行役員
- 2014年 6月 当社上席執行役員
- 2015年 6月 パラマウントベッド株式会社取締役
- 2016年 4月 同社常務取締役
- 2018年 6月 当社常務取締役
- 2019年 6月 当社専務取締役
- 6月 パラマウントベッド株式会社専務取締役
- 2020年 4月 当社代表取締役社長 (現任)
- 4月 パラマウントベッド株式会社代表取締役社長
- 2024年 4月 同社代表取締役 社長執行役員 (現任)

● 重要な兼職の状況
パラマウントベッド株式会社代表取締役 社長執行役員

代表取締役副社長
木村 陽祐
1980年10月10日生

- 2013年 4月 パラマウントベッド株式会社入社
- 2015年 6月 同社執行役員技術開発本部副本部長
- 2017年 4月 同社執行役員技術開発本部長
- 6月 同社取締役技術開発本部長
- 2018年 4月 同社取締役財務システム本部長
- 2019年 6月 当社執行役員財務部長 兼 システム部長
- 2020年 6月 当社取締役財務部長 兼 システム部長
- 2023年 6月 パラマウントベッド株式会社常務取締役
財務システム本部長
- 6月 当社常務取締役
- 2024年 4月 パラマウントベッド株式会社取締役
専務執行役員財務システム本部長
- 2025年 6月 当社代表取締役副社長 (現任)
- 6月 パラマウントベッド株式会社代表取締役副社長
執行役員財務システム本部長 (現任)

● 重要な兼職の状況
パラマウントベッド株式会社代表取締役副社長執行役員
財務システム本部長

常務取締役
八田 俊之
1961年12月21日生

- 1984年 4月 パラマウントベッド株式会社入社
- 2011年 6月 同社執行役員人事部長 兼 広報・IR部長
- 10月 当社執行役員人事部長 兼 広報・IR部長
- 2018年 6月 当社執行役員総務部長 兼 人事部長
- 6月 パラマウントベッド株式会社執行役員管理本部長
- 2019年 6月 当社取締役総務部長 兼 人事部長
- 6月 パラマウントベッド株式会社取締役管理本部長
- 2022年 7月 当社取締役
- 2024年 4月 パラマウントベッド株式会社取締役常務執行役員
管理本部長
- 2026年 6月 当社常務取締役 (現任)
- 6月 パラマウントベッド株式会社常務取締役執行役員
管理本部長 (現任)

● 重要な兼職の状況
パラマウントベッド株式会社常務取締役執行役員
管理本部長

役員紹介 (2026年6月30日現在)

取締役
小林 正樹
1972年8月4日生

- 1995年 4月 パラマウントベッド株式会社入社
- 2012年 12月 パラマウントベッドタイランド社長
- 2017年 4月 八楽夢床業 (中国) 有限公司董事
- 2018年 1月 八楽夢床業 (中国) 有限公司上海分公司
販売総経理
- 2021年 6月 パラマウントベッド株式会社執行役員
経営企画本部副本部長
- 2022年 6月 当社執行役員
6月 パラマウントベッド株式会社取締役
経営企画本部長
- 2023年 6月 当社取締役 (現任)
- 2024年 6月 パラマウントベッド株式会社取締役常務執行役員
経営企画本部長 (現任)

● 重要な兼職の状況
パラマウントベッド株式会社取締役
常務執行役員 経営企画本部長

取締役 (常勤監査等委員)
大内 健司
1959年1月12日生

- 1982年 4月 パラマウントベッド株式会社入社
- 2009年 4月 同社執行役員財務システム本部長
- 2011年 10月 当社執行役員財務部長
- 2019年 6月 当社顧問
- 2022年 6月 当社取締役 (監査等委員) (現任)
6月 パラマウントベッド株式会社監査役 (現任)

● 重要な兼職の状況
パラマウントベッド株式会社監査役

社外取締役 (監査等委員)
後藤 芳一
1955年10月30日生

- 1980年 4月 通商産業省 (現 経済産業省) 入省
- 2003年 8月 経済産業省 産業技術環境局標準課長
- 2004年 6月 同省 中小企業庁技術課長
- 2008年 7月 同省 製造産業局次長
- 2010年 4月 同省 大臣官房審議官 (製造産業局担当)
- 2012年 10月 東京大学大学院
工学系研究科マテリアル工学専攻特任教授
- 2015年 6月 当社社外取締役
- 2017年 10月 一般財団法人機械振興協会
副会長 技術研究所長
- 2018年 6月 当社社外取締役 (監査等委員) (現任)
- 2022年 3月 株式会社ソディック社外取締役 (現任)
6月 一般社団法人日本生活支援工学会代表理事

● 重要な兼職の状況
株式会社ソディック社外取締役

役員紹介 (2026年6月30日現在)

社外取締役 (監査等委員)

高橋 一夫

1960年1月8日生

- 1982年 4月 大和証券株式会社入社
- 2007年 4月 大和証券エスエムビーシー株式会社
(現 大和証券株式会社) 執行役員
- 2010年 4月 大和証券キャピタル・マーケティング株式会社
(現 大和証券株式会社) 常務執行役員
- 2012年 4月 大和証券株式会社常務取締役
- 2013年 4月 同社専務取締役
- 2017年 4月 株式会社大和証券グループ本社執行役副社長
4月 大和証券株式会社代表取締役副社長
6月 株式会社大和証券グループ本社
取締役 兼 執行役副社長
- 2020年 6月 同社執行役副社長
- 2022年 4月 大和証券株式会社顧問
- 2023年 6月 株式会社牧野フライス製作所社外取締役 (現任)
6月 当社社外取締役 (監査等委員) (現任)
9月 あいホールディングス株式会社社外取締役 (現任)

● 重要な兼職の状況

株式会社牧野フライス製作所社外取締役
あいホールディングス株式会社社外取締役

社外取締役 (監査等委員)

白井 あれい

1979年6月6日生

- 2003年 4月 厚生労働省入省
- 2005年 9月 マッキンゼー・アンド・カンパニー入社
- 2012年 11月 株式会社資生堂入社
- 2020年 9月 株式会社ベネッセコーポレーション入社
- 2021年 4月 同社事業戦略部 部長
- 2023年 1月 株式会社ベネッセホールディングス入社
経営企画推進本部 副本部長
1月 株式会社Waris取締役
- 2025年 4月 株式会社ベネッセコーポレーション
大学・社会人カンパニー DE&I事業開発部
部長 (現任)
6月 当社社外取締役 (監査等委員) (現任)
- 2026年 6月 株式会社ヤマダホールディングス
社外取締役 (監査等委員) (現任)
6月 株式会社ベネッセ i-キャリア取締役 (現任)

● 重要な兼職の状況

株式会社ベネッセコーポレーション
大学・社会人カンパニー DE&I事業開発部 部長
株式会社ヤマダホールディングス社外取締役 (監査等委員)

社外取締役 (監査等委員)

播磨 奈央子

1980年10月27日生

- 2003年 10月 朝日監査法人 (現 有限責任あずさ監査法人) 入所
- 2007年 7月 公認会計士登録
- 2008年 4月 播磨奈央子公認会計士事務所開設代表 (現任)
4月 ジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社
(現 ジャパン・ホテル・リート・アドバイザーズ株式会社) 入社
- 2017年 7月 日本環境設計株式会社 (現 株式会社JEPLAN) 社外監査役
- 2018年 1月 株式会社キノファーマ社外監査役
6月 アツギ株式会社社外取締役
- 2019年 1月 株式会社ビズリーチ社外監査役 (現任)
- 2020年 2月 ビジヨナル株式会社社外取締役
(監査等委員) (現任)
- 2023年 5月 株式会社Francfranc社外取締役 (監査等委員)
9月 キュービーネットホールディングス株式会社
社外取締役 (監査等委員) (現任)
- 2025年 6月 当社社外取締役 (監査等委員) (現任)
9月 ロジザード株式会社社外取締役 (監査等委員) (現任)

● 重要な兼職の状況

播磨奈央子公認会計士事務所代表
株式会社ビズリーチ社外監査役
ビジヨナル株式会社社外取締役 (監査等委員)
キュービーネットホールディングス株式会社社外取締役 (監査等委員)
ロジザード株式会社社外取締役 (監査等委員)

役員紹介 (2026年6月30日現在)

取締役	木村 友彦	木村 陽祐	八田 俊之	小林 正樹	大内 健司	後藤 芳一	高橋 一夫	白井 あれい	播磨 奈央子
取締役就任時期	2018年 6月	2020年 6月	2019年 6月	2023年 6月	2022年 6月	2015年 6月	2023年 6月	2025年 6月	2025年 6月

保有する経験／スキル									
企業経営・経営戦略	●			●		●	●		
財務・会計・ファイナンス		●			●		●		●
エンジニアリング (生産・技術・品質等)		●				●			
法務・コンプライアンス			●		●				
人事・労務・人財開発	●		●					●	
グローバル	●			●				●	
IT・デジタル		●		●					

執行役員 広報部長	大道 亮子
執行役員 経営管理部長	南口 雄一

社外取締役インタビュー

事業戦略と女性活躍支援で
グローバル規模の成長へ貢献

私のキャリアは、マッキンゼー・アンド・カンパニーでの戦略コンサルティングや、資生堂におけるグローバルブランドのマネージャー経験など、事業戦略にたずさわる仕事为中心です。女性のキャリア支援にも長年関心があり、ベネッセで立ち上げた新規事業では、女性のキャリア意欲向上に寄与していると自負しています。

当社の社外取締役を拝命したのも、これらのスキルで経営に貢献するためと認識していますが、一方で不思議な縁を感じます。大好きだった祖母が生前パラマウントベッドを愛用しており、ベッドの背を上げていろいろな相談に乗ってくれた思い出があるからです。そして今、取締役として実際に当社オフィスに足を運び、そのベッドがとても実直な

想いで作られていたことを実感しています。今後も質の高い製品やサービスを世に送り続けられるよう、務めていきたいと思っています。

当社の印象は「他社の追随を許さないほどの技術で優位性を誇ってきた企業」。ですが、医療・介護からヘルスケアへ事業領域を広げる段階においては、技術力だけでマーケティングを成功させるのは難しくなってきます。自社の強みである技術が、顧客の求める価値と一致するとは限らないからです。女性を含む多様な視点を生かし、潜在的ニーズを発掘することが求められます。また、グローバル戦略においては、当社製品が受け入れられる市場を柔軟に見極めることで、さらなる拡大が可能になると考えています。

WELL-BEING for passion

製品を売って終わりではなく、その先にある誰かの人生を支えたい。当社の社員と接する中で、そんな本気の想いを感じました。ものづくりに込めた情熱を受け止めてくれるエンドユーザーの皆さんへ、社員とともにウェルビーイングを届けていきたいです。



社外取締役
(監査等委員)

白井 あれい

社外取締役
(監査等委員)

播磨 奈央子



WELL-BEING for the future

当社はすべての人に笑顔を届けるべく、事業を拡大しています。私は会社が適切な方向に成長できるようにサポートします。プライベートでは2児の母であり、次の世代に暮らしやすい環境を残すことが願いです。よりよい将来につながるよう、役割を全うします。

社外取締役インタビュー

財務・会計の豊富な知見を生かし 新たな挑戦を支援

2003年に朝日監査法人(現 有限責任あずさ監査法人)に入所し、公認会計士として監査業務に従事。その後、ホテル不動産ファンドを経て、スタートアップから歴史のある企業まで、さまざまな業種の社外役員を歴任してきました。

企業の財務・経営データから読み取れるのは、業績だけではありません。取り巻く環境や潜在的リスク、さらには組織に息づく人々の想いや願いまでもがそこに映し出されています。その点、当社の

足跡を紐解くと、基盤事業が極めて安定的に成長していることが分かります。

歴史ある企業では、新しい挑戦に対してしがらみや躊躇^{ちゅうちよ}が生じがちですが、当社は健康事業への領域拡大やDXなどに果敢に取り組んでいます。木村社長からも次なる改革への強い意志を感じました。老舗メーカーでありながら今なおイノベーションを止めない姿勢は大変稀有であり、素晴らしい強みだと感じています。

会社の将来に向けた挑戦に対し、これまで培ってきた公認会計士と社外取締役の双方の視点から貢献したいと考えています。多様な成長ステージの企業が抱える悩みをリアルに理解していることは私の強みです。ときには過度なリスクを抑えるブレーキとなり、ときには次なるチャレンジの後押しとなるアクセルを踏む、そんな役割を果たしていきます。さらなる事業拡大に向け、研究開発への投資や、業界での存在感を生かしたスタートアップとの提携など、幅広い選択肢の具現化に期待しています。

Facts & Data



CEO Message

Value Creation

Business Sustainability

Corporate Governance

Facts & Data

財務関連データ

2026/3					
連結売上高	1,068億円	医療事業売上高	416 億円	介護事業売上高	640 億円
		健康事業売上高	12 億円	海外売上高比率	9.5 %

※金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

非財務関連データ

[社会関連]

		2024/3	2025/3	2026/3
管理職に占める 女性労働者の割合 (%)	PB	3.8	3.9	4.3
	PT	2.8	2.6	2.6
	PCS	4.6	4.4	5.0
男性労働者の 育児休業取得率 (%)	PB	50.0	66.7	89.7
	PT	29.4	81.8	109.1※
	PCS	16.7	71.4	45.0
新卒採用における女性比率 (入社人数比) (%)	PB	42.9	37.5	50.0
	PT	パラテクノ株式会社においては、新卒採用を行っておりません。		
	PCS	40.0	30.0	57.1
定年再雇用制度利用者率 (%)		75.0	80.0	93.3
「パラマウントキャンパス」受講者数 (人)		901	819	976
ストレスチェック受検率 (%)		87.3	91.5	91.6
従業員数 (人)		4,126	4,360	4,555

※育児休業取得率は、2022年より育児介護休業法に基づく以下の算定方法に変更
2024年に1回目の育児に伴う休業を取得した男性社員数÷2024年に子供が生まれた男性社員数×100
パラマウントは育児休業取得率の算出対象となる取得必須の有給育児休暇制度に基づく育児休業取得率の算出においては、事業年度と当該休暇や育児休職の取得期限が異なっていることにより、分子と分母の対象者の範囲が異なるため、必ずしも100%にはなりません。

[環境関連]

		2024/3	2025/3	2026/3
Scope1 / Scope2排出量 (t)		3,855	4,110	3,821

※指標はScope1/Scope2に該当するGHG排出量とし、算定対象はパラマウントベッドホールディングス株式会社・パラマウントベッド株式会社としました。

[ガバナンス関連]

コーポレート・ガバナンスの概要 (2026年6月30日現在)

組織形態	監査等委員会設置会社
取締役会議長	代表取締役社長 木村 友彦
取締役の人数	9名 (うち女性取締役2名)
社外取締役の人数	4名 (独立役員に指定されている人数 4名)

		2024/3	2025/3	2026/3
コンプライアンス研修の受講率		100%	100%	100%

会社情報

(2026年6月30日現在)

社名	パラマウントベッドホールディングス株式会社
英名	PARAMOUNT BED HOLDINGS CO., LTD.
本社	〒136-8671 東京都江東区東砂2丁目14番5号
電話	03-3648-1100 (代表)
資本金	1億円
従業員数	連結：4,555名 (2026年3月31日現在)
拠点	国内拠点：108拠点2工場 パラマウントベッド (15拠点) パラマウントケアサービス (80拠点) パラテクノ (13拠点) 海外拠点：10拠点4工場 東南アジアや中国、インド、中南米など

主要グループ会社一覧

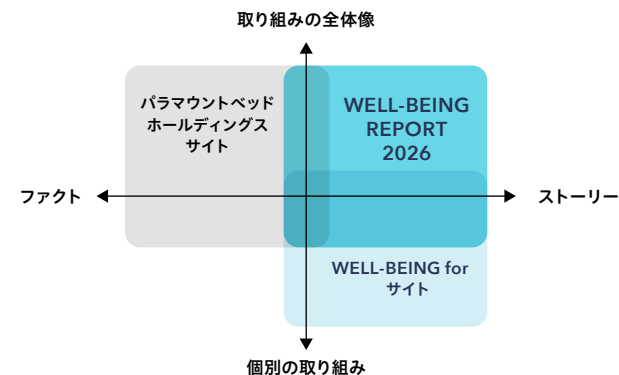
(2026年6月30日現在)

国内	パラマウントベッド株式会社 パラテクノ株式会社 パラマウントケアサービス株式会社 KPサービス株式会社 PARAMOUNT BED Healthcare Fund NTT PARAVITA株式会社 サイントル株式会社 ハートラボ株式会社 株式会社カルディオ
海外	パラマウントベッド アジア パシフィック PT.パラマウントベッド インドネシア 八楽夢床業 (中国) 有限公司 パラマウントベッド ベトナム パラマウントベッド ベトナム トレーディング パラマウントベッド タイランド パラマウントベッド インディア パラマウントベッド メキシコ パラマウントベッド USA



WELL-BEING REPORT 2026

本レポートの立ち位置



報告対象範囲

パラマウントベッドホールディングス株式会社および連結子会社

報告対象期間

2025年4月～2026年3月

最新の情報、重要な情報を提供するために上記期間の前後にわたるものも含んでいます。

参考にしたガイドライン

- Value Reporting Foundation「国際統合報告フレームワーク」
- 経済産業省「価値協創ガイダンス」

注意事項

本報告書に記載した将来に関する事項につきましては、本報告書の発表日現在において入手可能な情報に基づいて想定したものです。実際は今後発生する様々な要因により、異なる結果となる可能性があります。また本報告書に記載の製品・サービス（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告を目的としているものではありません。



PARAMOUNT BED HOLDINGS

<https://www.paramountbed-hd.co.jp/>